

真ッ裸の体に海藻をつけて、土人の踊り、その頭上に白き勇渾な入道雲が……

ふかんど

第22号

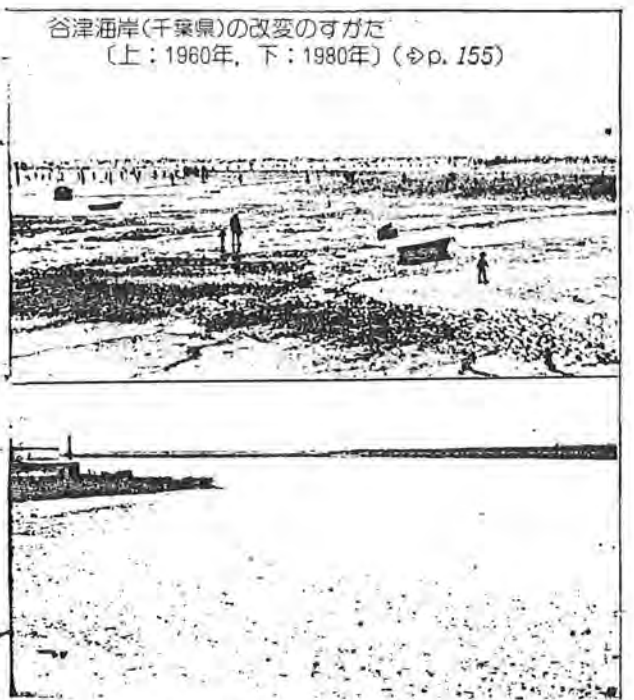
1981.8.7

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五と六
電話 0476-31-1666
文責・作成 森田三郎

講誌年・2000

PRINTED IN
ふかんど

谷津干潟が教科書に登場しました



谷津海岸(千葉県)の改変のすがた
(上:1960年,下:1980年) (p.155)

干潟が埋め立てられ、高速道路になっている。(同位置で撮影)

人間形成の基盤に冬子する自然環境、
か、その結果も現われたのは世代サイク
ルである。か、その時は後キというその。

一橋出版・保健体育
小野三嗣著 昭和57年度使用
(保体004)

2. 自然環境の保全

自然環境からのうるおいのない現代の都市生活では、人々に心のゆとりがなくなり、自殺や犯罪の多い一因となるが、自然の空気・水・土、そして緑(植生)、鳥獣・昆虫、さらに湖沼・海岸などの美しい自然環境は、人の情緒を安定させ、次の日の仕事への意欲をわかすなど、健康な生活をおくるために非常にたいせつなものである。

わが国の自然環境は経済の高度成長のなかで、都市化・過密化、または大規模な国土開発によって急速に破壊されてきた。経済成長優先の考えかたがもたらした自然破壊と健康障害などマイナス面が明らかになり、良好な自然環境の保全への欲求となって広がった。

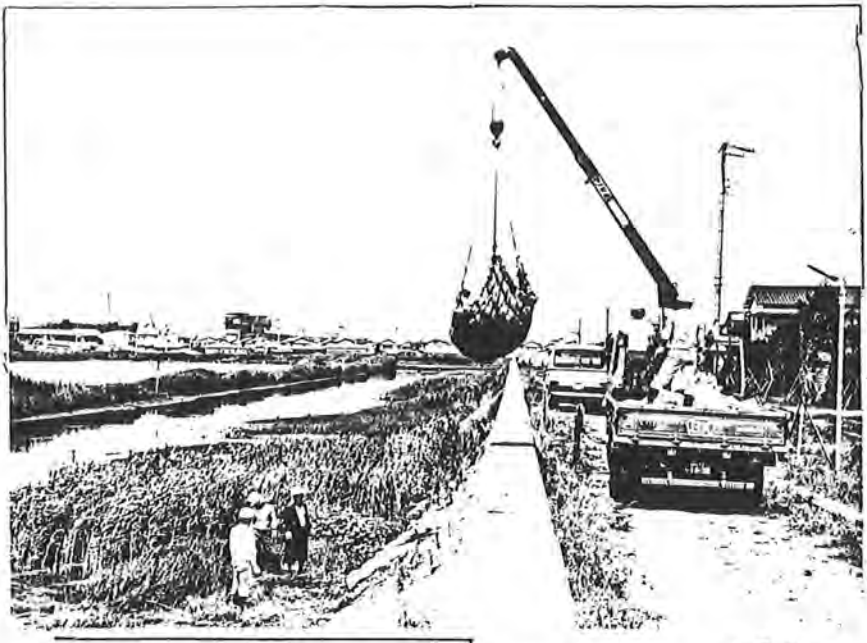
<夏休みの宿題として干潟観察がテーマです。中学生より利用希望の申しでがありました>

谷津干潟ボランティアグループ

7月26日に発足しました。今まで、谷津干潟愛護研究会と美化委員会が行ない、展開してききました。一か、最近、会員以外の人や一般の人から、誰かれを問わずに、

広く一般に公開し、有志を募天ほうがよいという声がかれたようになりました。

とより、私たちと会員のみでやろうと限っていたわけではありませんでしたか、ここに至って反省し、改めて地域の市民の方々に参加を呼びかけていく事になりました。よろしく!



32回 谷津干潟 クリーン作戦

うだるような炎天下、汗だくで、四人の主婦、女学生一人、前田建設、竹中土木そして森田。一感謝!

谷津干潟に
"自然公園"をの看板
本来なら、環境美化・保全の類の看板は行政自らか設置すべきでーようか。今はボランティアによるか。



◎ 毎週日曜日は野鳥観察舎が一般に公開され、種々のボランティア活動がなされています。是非一度おいで下さい!

谷津干潟

かつて東京湾は、延々百数十キロにわたって広々とした干潟(ひがた)が、野鳥の楽園であった。だが、公有水面埋立法なる法律がまかり通るようになってきた。三十五年(昭和十)から、その干潟が次々と埋め立てられた。一部漁民へは補償が支払われたが、数百万、数千万の人々が春の潮干が、夏の海水浴、船遊び、そして四季を通じての豊かな自然とのかわりを断たれていった。

56.2.24
ヨシウリ

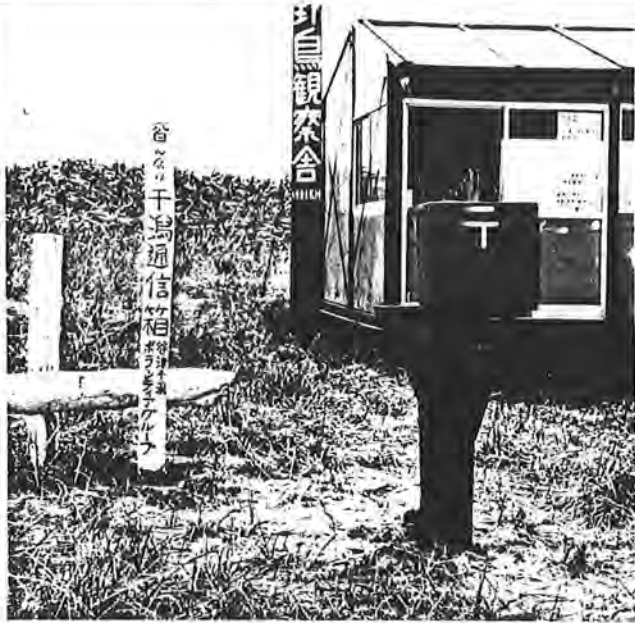


帰ってきた自然
東京の野鳥たち

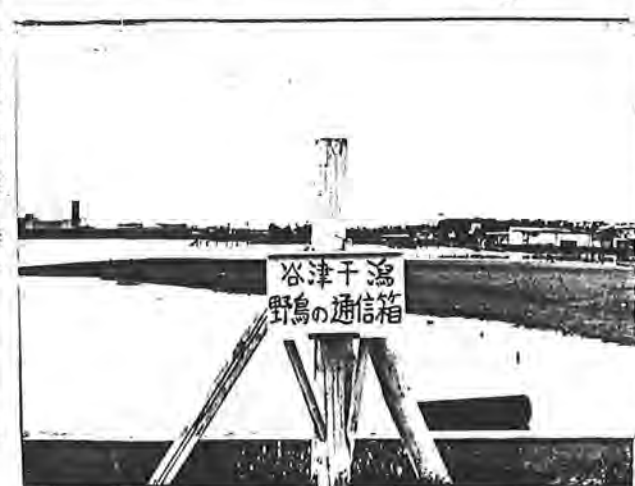
かつての埋め立ては致命的なダメージを与えてきた。干潟という干潟をすべて埋め立てられ、行き場を失った野鳥たちは、東京湾に残留した。埋め立てられた干潟は、かつての埋め立てられた干潟とは異なる。干潟という干潟は、かつての埋め立てられた干潟とは異なる。干潟という干潟は、かつての埋め立てられた干潟とは異なる。

最後のトリデ守ろう

谷津干潟に一度の割で通って、鳥たちの観察が続いている。だが、地元の自治市長が保護区設定に難色を呈し、京成線沿線の所有地である四・四四、中華料理店隣、石川勉さん(石川勉)の所有地を、埋め立てる計画がある。石川勉さんは、谷津干潟の自然を守りたい。谷津干潟の自然を守りたい。谷津干潟の自然を守りたい。

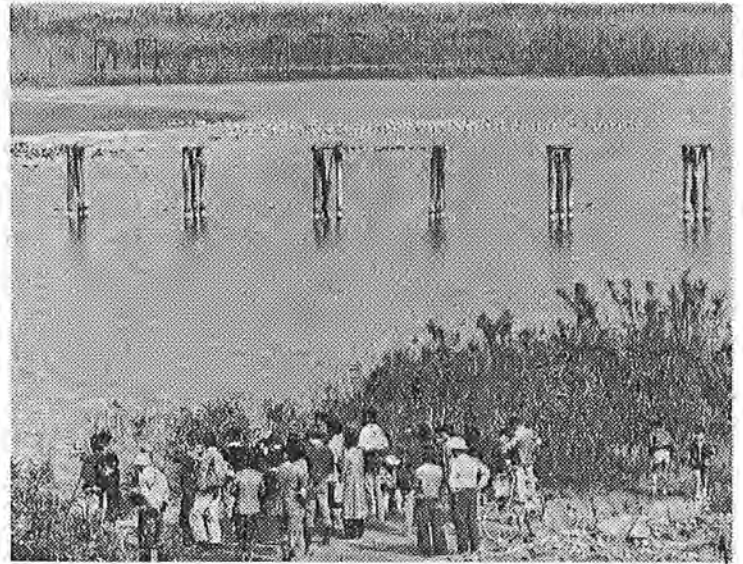


野鳥通信箱へ
谷津干潟のまわり、三ヶ所に設置してあります。
中には、ノートとペンが入っています。行政に、又ボランティア活動に生かしたり希望。



谷津干潟と野鳥観察舎が必要とされていた

「森田さん、たぶん小さくていいの、谷津干潟に野鳥観察舎が欲しいの、何とか作ってくれない」。思えば、それは6年前から常に聞かされてきました。



山林、野を買い取ったり借りあげて、野鳥への餌入れの場、サンクチュアリ(野鳥の楽園)を作ろう。日本野鳥の会が三年前から呼びかけて、資金を募り、その第一号が去年五月、北海道・苫小牧のウトナイ湖にできた。これに刺激されてか、最近、各地の自治体も野鳥が安住できる場所づくりに意欲的になっている。

野鳥に楽園人に安らぎ

日本野鳥の会が建設している。トナイ湖のサンクチュアリは、大阪府でも今年度から、埋め立て約五十ヶ所。湖と河川が半分近くを占めており、大半が国、市有地。第一段階として、この夏から七千万円の予算で、北側の温泉約五十ヶ所に埋め立てる。休養室、レジャールーム、観察小屋などを建設している。自治体の計画としては、福島市、児島市出水市では、環境が良すぎることが二十年以上にわたって埋め立てられた。市庁舎周辺六十六ヶ所に、野鳥の会の協力で候補地選定を進めている。

各地で意欲的

石川勉さんは、49年より谷津干潟と京葉港埋立地に、週一回調査に来ています。



干潟で遊ぶオバシギ、コオバシギ。こういう風景も東京湾では谷津が最後になってしまった(日本野鳥の会提供)

夏休みの宿題に、谷津干潟の観察をして、野鳥観察舎を利用して子供たち、ゴメンナサイ! しばらくオマシてね。

ふかんど...夏雨とゆかけ船の返か干潟の沖から、ギンヤンマヤオニヤンマが次々

ふかんど

第23号

1981.8.10

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666
文責 森田三郎

講談(年)2000

PRINTED IN 日本



谷津干潟展

千葉相互銀行
秋津支店

お密さん、よく見て
いくそう、中々好評
だそうです。

秋津・香澄にお住ま
いの方は、最近習志野
市民になった人が殆ん
どです。谷津干潟には、
多くの人が来っています。

「クリーン作戦をしてく
れている主婦の声」

「森田さん、今更企業庁に
気がねしてははいまらないわ
よ。だって、森田さんた
ち、ここまで来ちゃったん
だもの、ソナ資格なりわあ。
ネエー、遠慮なんカーマドウ
スルって言うの。ドンド
ン、ちゃっやいなさいよ。」
「マア、ダケドネー...」

お知らせ
× × ×
親しみを持た
れ始め、利用さ
れた方が増えて
いる時だけに、
本当に申し分け
ないと思っていま
す。私達は、
企業庁の誠意を
信じております。

野鳥観察舎二カ月で自主撤去

56.8.14 (アサヒ)

谷津干潟 保護団体が柔軟作戦

保存運動の拠点として、野鳥と、完成からわずか五月余り
愛護家たちの募金で習志野市の
「谷津干潟」に建てられた野鳥
観察舎が、十六日に自主撤去さ
れることになった。土地所有者
である県企業庁から「不法建
物にあたる」として再三、立ち退
きを迫られた自然保護団体側
が、ここで無用なトラブルを起
すことは運動を進めていく上
でマイナスになると判断した
ためだ。これには、「せつかく
利用者が定着してきたのに」

観察舎は約三千平方メートルの簡易
プレハブ二階建て。総工費は四
十五万円。観望用の望遠鏡、鳥

類図鑑、写真パネル、干潟の清
掃道具などが完備してあった。
日曜日などは百人以上の利用者
で大にぎわいだった。

しかし、建設場所が県企業庁
管理地であり、事前に使用許可
を得ていなかったため、同行は
「不法占拠」だとして、同研究
会へ撤去通告を出していた。そ
の後、再三話し合いが行われた
が、企業庁側は先月十日、「通
告通り撤去されない場合は法的
手段(強制執行)をとらざる
をえない」と、内容証明付き郵
便で通知を出した。

56.8.14 (3日) 谷津干潟の野鳥観察舎 16日に撤去、白紙に

県と話し合い

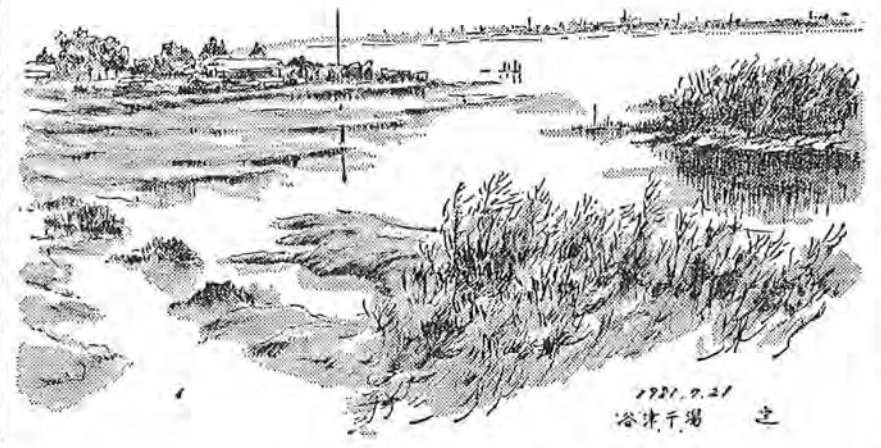
習志野市谷津に、野鳥の楽園、
として残っている谷津干潟に面し
た県企業庁所有地に、「谷津干潟
愛護研究会」(森田三郎代表)
が市民募金を建設した野鳥観察
舎の撤去をめぐり、県企業庁と森
田さんから自然保護団体との間で協
議が進められていたが、このほど
開いた両者の話し合いで、野鳥観
察舎を撤去して問題を白紙に戻す
ことが決まった。



撤去されることになった谷津干潟野鳥
観察舎 習志野市秋津で

一度、企業庁の希望を100%入って、その後小
ただが、当局と建設する交渉を進めます。

<個人的な事ですが>... 森田一人だけで、埋め立て地に、ウンコを1000回以上しています。だから観察舎とトイレは必要です。



残された野鳥の楽園

わが街

＝谷津干潟＝

谷津干潟愛護研究会(代表 青、森田三郎さん)が発行する「ふかんど」という機関誌がある。昨年六月二日発行の創刊号で「ふかんど」という言葉について、次のように語っている。

「昔、谷津干潟はさう言われていた。古い呼び名である。25、30年まえなら、さうで「ふかんど」のようにならなう。『谷津』は「あつ、谷津のふかんどがあつ」と、わかつたものもある。

「として」「ふかんど」という名がついたのか、ハッキリは知らないが、ハッキリ知っている人はいなかった。ただ、多くの人が言っている。『谷津干潟』のふかんどは、深いところがある。『谷津干潟』のふかんどは、深いところがある。『谷津干潟』のふかんどは、深いところがある。

「谷津干潟はさう言われていた。古い呼び名である。25、30年まえなら、さうで「ふかんど」のようにならなう。『谷津』は「あつ、谷津のふかんどがあつ」と、わかつたものもある。

「として」「ふかんど」という名がついたのか、ハッキリは知らないが、ハッキリ知っている人はいなかった。ただ、多くの人が言っている。『谷津干潟』のふかんどは、深いところがある。『谷津干潟』のふかんどは、深いところがある。

谷津干潟に、鳥を見にくる人、散歩にくる人、愛の語りいにくる恋人たち、カニや魚をとりにくる人、虫をとりにくる人が増えました。

え・金子定雄

『谷津干潟からのお便り』

・ここに来て、日増しに、秋の渡り鳥の姿が
多く見られるようになりました。シズ・チド
リを中心に、その数はふくれあがっていきま
す。暑さも峠を越したようですが、

魚の大群が、東西二本の水路を通って、泳いで来ます。そして彼らは、干潟全域に散らばります。満ち潮の時、一度見てごらん

なさい。どこもカニも魚だらけです。

鳥獣保護の指定せひ

愛護研究会つくり運動

【調査】千葉県習志野市の谷津干潟に広がる谷津干潟。ここは、かつての東京湾の面影を残す。数少ない干潟のなごりも、野鳥の多いところは日本有数の、日本野鳥保護連盟も折り返しした。野鳥の楽園です。しかし、この干潟も開発の波に押されて消えかねない。谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)の有志二十人が、自然保護運動に身を投じています。彼らはこの谷津干潟を、保護区に指定する予定です。

この谷津干潟は四十五、六。そのむかし東京湾をとり囲むように広がっていた干潟の姿を、

このままではいけないと、乗り出したのが、千葉県市川市内で新聞販売店を営む森田三郎さん(55)。「生まれたのが船橋で、干潟で育ったんです。ですから、ある程度、みたいな干潟がなくなっていくのが、まじまじに嫌なりました。そして谷津干潟愛護研究会を作ったのが一九七六年。干潟のゴミをとり、そのかいあって、二年前、自然環境土産利用が認められたものの、この干潟を埋めて地盤にのびのびと持つ習志野市からストップがかかって、鳥獣保護区指定の方は進みません。

野鳥のレストラン、消さないで

開発で破壊すすむ谷津干潟

1981.7.16
7カ19



谷津干潟を守れと訴える森田三郎さん

「谷津干潟は四十五、六。そのむかし東京湾をとり囲むように広がっていた干潟の姿を、

干潟に来たり、ゴミを捨てたり、空カン・空ビン・石などを、魚やカニ、鳥たちに投げつけたりしないで下さいよ。

暑さきびし(折)り、皆さんくれぐれもお体に気をつけて下さい。私産は、谷津干潟クリーン作戦・土人の家の補修などをしております

「月刊・ならしの」が早く出るよう、皆さんでお祈りしましょう。



クリーン作戦モテル地区にカモの群が来ました。水草の根、コケ、ゴカイを食べる。

ららぽーと「展望台」に登る

八月十七日に、船橋マスコットの

回転レストランに行きました。

見晴らしはとてきよく、一時間

でひと回りするのこころでした。

谷津干潟、埋め立て地、イ
ー、広い干潟の見えた大
きな模をびっくりと。

楽園の子供達

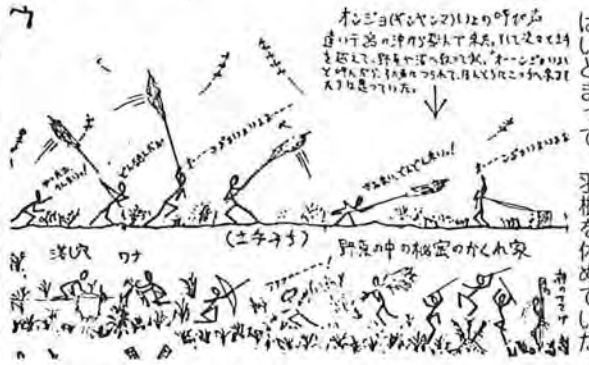
オク話 絵文 森田三郎

「オンジョいよ——」の呼び声

オンジョとは、ギンヤンマのことである。20年以上も前のこと、谷津干潟のちかくでは、子供たちはもちろん、皆んなそう呼んでいた。

オンジョは、沼や田んぼ、野はらや小川が大好きである。谷津干潟がまだ「ふかんど」と呼ばれていた頃には、そういう後背地がたくさんあった。そこはまた、昆虫や魚たちがにぎやかに生きているすばらしい天国だった。もちろんそこには、ぼくたち子供の生きた教室でもあり、たのしい遊び場だった。

しかし今は、ゴミを捨てられ、みんな消滅してしまった。それが文化的生活の悲しい答えだった。オンジョイを呼ぶ子供たち



夏だった。晴れた、風のない日だった。房州の山々が霞んでいる遠い干潟の沖から、オンジョたちがとんで来るのだった。それははじめ、黒い小さな点のように見えた。干潟の上を低くとんで来るオンジョは、グングンこつちに近づいて来て、土手道を「ヒョイ」と

とび越えるようにして、沼や野原へと散っていった。うちの近くの木の梢にもオンジョたちがいっぱいまとって、羽根を休めていた。

いよ、オレたちは待ってるんだぞおーつ」ということだった。子供達だった。ぼく達は、そう呼んだら、その呼び声に連れて、ほんとにオンジョたちが、こつちの方へとんで来ると思っていたのであった。

夏の日差しを浴びて、はだしの、日やけた子供たちのそんな姿が、土手みちや沼や野はらにあった。つがいもあつたし、ぼくは五匹も連らなっているのを見たことがある。ガキ大将の中には、七匹も連らなっているのを見たものもいた。そんなのは、ちよと、ムカデが空をとんで行くようだった。夏の夕方、沼の上空を、ものすごいオンジョの群が、影をつくつてぶつかりながらとんでいることもあった。

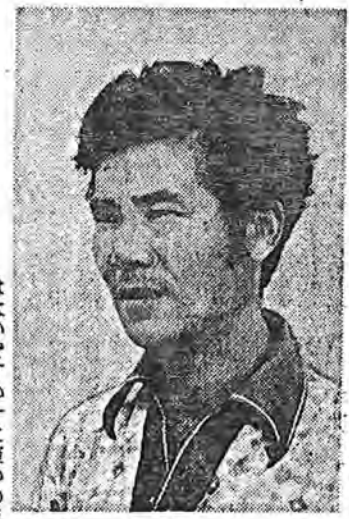
オンジョのほかに、ドロボー(オニヤンマ)、ヒラキ(ウチワトンボ)もいた。子供たちは、誰でも、秘密のかくれ家、を持ちたがる本能がある。手づくりの、粗末なもの。しかしそれは、苦心の、一生懸命のものである。私たちの場合、それが、野はらの中にあつた。ムツとする草いぎれの、夏草でつくった。それでぼくたちは、土人やターザンになつたつもりでいた。おとし穴や草のワナは、守るためのもの。ガキ大将に教わり、やがて、年下のものに伝えた。

1981.7.19 赤旗

「私は谷津干潟のセールスマン。森田三郎さん もり た さぶ ろう



千葉県生まれ。1971年、東洋大学英米文学科中退。67年から千葉県市川市で新聞配達員。76年谷津干潟愛護研究会会長。千葉県市川市在住。36歳



「わたしの干潟のイメージジツてのは、赤銅色の子どもがはだして駆け回った。トノボがとんでたり。風になびくアシの原っぱなんです。」

「子どもを遊ばせたい。きれいな海岸が、どぶ川みたくに汚れてるんですわね。でも、よく見ると、そこにカニや魚がいるんです。サキやカモもいました。これはなんとかしなればと。」

「きれいにするには、看板を出してもだめ。さくも金網もだめ。きれいにし、ゴミを捨てるのに気がひけるようにするしかないですわね。」

「鳥獣保護区に指定されたら、あとは絵本づくりなんかやって、子どもの情操教育みたいなものに打ち込みたいですわね。」

企業界に「京葉港地区の不法投棄物の清掃の要望書」を提出—ました。(七月二日)

- 一、埋め立て地のゴミを全て撤収すること。
- 二、企業界肉係の工事によって出た、水路・干潟内のゴミ、及びその周辺のゴミを全て清掃すること。

おとしろかった本は—

- 「自助論」
- 「サミュエル・スマイルズ」
- 「ザ・サミングアップ」
- 「サマセット・モーム」
- 「フェアウェイの彼方へ」
- 「ホビー・ジョーンス」

へ楽園の子供達は、月刊・ならしのしにて連載—たさのです。ご協力有難うござります。▽

◎ ちょっと一言 船橋卸団地組合会館前に「いそしぎ」というお店がある。そこに谷津干潟の鳥のパネルがある。「日曜はダメよ、

へッギヌカユエナア、三郎うお前やあ、土人ヤコジギマテ丸いヤウカア、あんまり女をヤンカッカリさせろ

ふかんど

第25号

1981年
8月25日

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

年講誌 2000

PRINTED IN
ふかんど

ある日のフィールドノート
から

ニユートンと

クンの落ちるに、

気がつかず

しみじみと

見るとのまノゲン

なれば、い

一九七六年 コアジサシ

シロキドリ・コキドリ

繁殖調査より



楽園の子供達

第8話

干潟のカレイつき

絵と文 森田 三郎

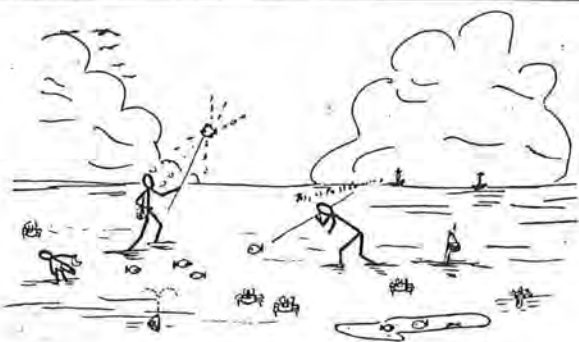
初夏、干潟からの呼び声である。生暖い海風が、やわらかく吹く頃。ほくの家の庭と、わらびき屋根の大半は、燃えるような緑の木の葉におおわれた。

土手道を越え、干潟へ走った。干潟には、どこもかしこも、小さなカレイたちが、いつばい泳いでいた。くるぶしからふくらはぎくらいの高さ、浅いミネ(溝)や、潮溜りの中は、カレイだらけだった。

パシャパシャと、水音を立てて歩いて行く。すると、砂の色をしたやつが、てんでに、かつてな方へ走って行った。

カレイたちは、泳ぎ出すとき、バツと砂を舞い上げ、スーとすべるようにして泳ぐ。そしてまた、止まったときにも、ヒレを二、三回ヒラヒラと動かして、砂を舞い上げる。すると、砂が落ちてきて、カレイの体をすっぽりと包みかくしてくる。だから、砂地との見分けがつかなくなってしまうのだ。ジーと見つめていると、カレイの方も、そこから目だけ出して、キョッキョッキョと、ほくを見ている。ほくたちは、自転車のスポークや、太い針金をとがらせ、それを竹の棒にゆわえつけて、モリを作

月刊・なぐりーの



潮かせと浅瀬、ヤーンと小さなカレイ。子供だった私は、ヤカク来た夏を想い、うしろくわって胸をときめかせました。

園児らと共に
一九七七年の九月。当時まだ松葉杖をついておりました。六月に交通事故を起こし、足の骨を研いでしまいました。退院して間もない時、袖ヶ浦田地の幼稚園児といっしょに、おばらしい秋晴れの谷津干潟に行きました。私か園児の年令の頃を想い出しながら、

ヒナを抱くコキドリ
ここは、ダンブカーが走るその道路ばたなのです。タイヤの所から、一米も離れていないのです。暑さの為、くちばしをあげている。



「干潟の想い出」のイラスト販売中(新聞紙大) 一部三百円・送料二百円です。

野鳥の楽園保護を

市川の谷津干潟を清掃
森田さんの

よみうり
1979.1.6



一人で黙々と清掃する森田さん

野鳥の楽園保護を
市川の谷津干潟は、東京湾
岸で最も野鳥の楽園だが、こ
の干潟(ひがた)が、野鳥たちが
安心して住める園の鳥獣保護区特
別地域となることを願うながら市
川市本北方一三五の六、新聞店
谷津干潟は、京葉港埋め立て事
業の中で取り残された形でもまれ
た上、そのうちでも東京湾岸
道路から谷津遊歩道にかけての
三十三号は、巨鳥の野鳥の
飛来が確認され、五十一万羽の
野鳥の工場となっている。
同干潟に近い、船橋市宮本町で
生まれ育った森田さんは、五
十年に、新聞に載った一枚の写真
の中に見覚えのある鳥(く)が
残っているのを見て、感銘に
かられ、干潟に通うたびに、群れ
渡る野鳥の姿に感銘された。
自身の身軽さから、朝、夕刊の
配達の間は天気さえよければ干潟
に通って、野鳥の観察(清掃)を繰
り返すようになった。
軽便車に「三袋、ビニールと
モ、ロープ」を積みこんで、干潟の時
道を見込み込み、干潟の干潟時を

みでは中に入り、ポリ袋、空き
びん、空きカン、ビニール類など
一日に三十袋も捨てることある。
流木は、ロープで引っ張り上げ
る。この流木で、昨年九月から、
丸太のベンチ百八十脚、テーブル
つき二十五脚を作った。白いベン
チを張り、いまでは東京方面から
訪れる家族連れなどに格好の休み
場として利用されている。
もっとも、これは県企業庁が
「住宅用地造成に支障のある場所
では移動式にする」と通達
してきており、森田さんの熱意と
努力も、開発にはなかなか立ち向
かえないが、心ない人によって汚
されている干潟を必死に食い止
め、野鳥の楽園を何とか開発の波
から守ろうとがんばっている森田
さんの姿は、愛鳥家たちからも高
く評価されている。

この頃、谷津
干潟のまわりは
ゴミだらけで
た。どこから、
どのように手を
つけたらよいの
か、全くわか
りませんでした。
で、私は、やがて私たちは、
「とりあえず、とにかくやり
始めました。なつかしく思う。

まだ野鳥はいた

海好きの青年が突き止める

新聞配達をし
ながら八か月

この青年は、市川市本北方二の
三五の六、読売新聞本八橋北部販
売店勤務、森田三郎さん(30)。森
田さんは船橋市の生まれ育ち。

少年時代の海への思い出が埋め
立てられてゆくことを心算
めた新聞配達青年が、忙しい勤
務の合間、約八か月かけ、船橋
市から千葉市幕張にかけての無人
の埋め立て地を歩いて、野鳥の生
息、繁殖調査を行った。
青年が調べた京葉港埋め立て地
内には、保存問題が起きている
野鳥の楽園、谷津干潟があり、
習志野市でも最近、生息調査など
を行ったばかり。
同市の調査は、「野鳥は羽を休
めるだけで生息場所ではない」
—という結果だったが、青年は、
三千個近いシロチドリなど野鳥の
巣と約六千個の卵を確認、埋め立
て地が東の間とはいえず、追われ
る野鳥の最後の生息場所となっ
ていくことを足で、実証した。

京葉港埋め立て地

①調査結果を説明する森田さん
②森田さんの調べた野鳥の分布図



榎井 成夫記者

巣3,000個、卵6,000個

足で実証、詳細な図作る

確認済みには
一つ一つ番号

調査は、埋め立て地内をくま
く歩き、スリパチ状の直径十五
センチのコアサン、シロチドリの
巣と、卵を確認する作業から始
めた。根気がいった。確認済みの
はワリバシをたて、タテないよ
うに注意し、同じ区域に二十回
以上足を踏み入れたこと。
シロチドリ、コアサンの産卵
は四月八月まで及ぶが、そのビ
ークは六月七月初旬。
踏みつけないよう細心の注意
を払い、巣を六月十七日(百十
五個)、六月二十日(百三十八
個)、六月二十九日(百五十三
個)と確認、結局、十月中旬
まで、巣を千八百九十五個、
卵五千七百八十九個も確認した。
その間、森田さんが埋め立て地



この調査について、千葉の干潟
を守る会・大塚清会長は「これま
で埋め立て地のトリの生息の調
査は全くなかった。貴重な結果
だ。習志野市の調査のような表面
的なものでは、何もわからないと
思う」と、森田さんの足でかせい
だ調査を高く評価している。

— やって良かったと思う。幸せ、だったと思っている。(繁殖踏査シリーズ①)

● 谷津干潟ボランティア活動に御協力して下さい。毎日曜日、「土人小屋」に集まり、そうじ、観察、作業をしております。●

シロチドリ等と共に

東京海岸の埋立地におけるシロチドリ・コチドリ・コアシサシのコロニー



島西埋立地：夏鳥の下に2千以上の鳥が居た。

千葉県市川市
森田 三郎

かつては広大な干潟に恵まれ、夏はシロチドリやコアシサシが卵を産み、冬はガンが渡り、ハシロの群が切りかえすようにシロチドリに飛び回っていた東京湾も、今はほとんど自然の干潟はなく、浅瀬や埋立地によって見る影もない。しかし、その埋立地に、夏になると、コアシサシやシロチドリが、ブルドーザーのキャタビラにおびえながらも巣を作る。

シロチドリ、コチドリ、コアシサシの全営巣数を調べた。これら三種の鳥がいかに干潟にかかわっているかを明らかにして、彼らの繁殖環境を保護する資料とすることを目的とした。これらの干潟の中でもとくに私が強い関心を持っている谷津干潟(52真地地図参照)が、休息場および産卵場として重要性が高いことも明らかにしたかったのである。

七五年は、鳥卵の種判定に未熟な点があったので、ここでは主として二年目の七六年夏の調査について記すことにした。

表 コアシサシ・シロチドリ・コチドリの鳥卵数。1976年4月10日～8月20日調査。表中の上段は鳥の数を、下段は卵の数(●)を示す。

埋立地	コアシサシ	シロチドリ	コチドリ	計
幕張・京葉港	2,391 5,384*	2,508 7,338*	77 233*	4,876 12,955*
浦安	214 578*	531 1,524*	19 71*	764 2,173*
葛西	1,247 3,275*	1,063 3,049*	67 238*	2,377 6,562*
計	3,752 9,237*	4,102 11,911*	163 542*	8,017 21,690*

以下、七五年と七六年の調査で気がついた点をまとめてみた。

コロニー 1
地理環境―営巣の状況
非常に多くの営巣が確認されたコロニーは、埋立地においてサンドパイプより土砂が噴き出された所か、広い面積にわたって地ならしがなされた所に作られた。砂に貝殻が程よく混り、地面は白っぽく、やわらかい。水はけが良く、乾燥しておき、夏の太陽が強烈に照りつけ、ものすごくまぶしくとても暑い。砂漠の様な場所である。強い風が吹けば、砂嵐がおきる。砂が舞い上がり、大きな砂のカートンとなって走ってゆく。たたきつける砂の音に身をこめてしまふ。熱いサラサラした小さな砂丘があらに有り、サタサタと足がめり込む。雨上がりの後は、立ちこめる水蒸気、モヤにスモッグと包まれてしまい、何も見えな。そんな所にコアシサシやシロチドリは、地面におわん型の穴を掘って卵を産むのである。貝殻は敷かれたように無散に散らばっており、周囲よりやや小高い。

鳥 1

二種の鳥の同居
一つの鳥の中に、二つがい以上のコアシサシが同居していたものが幾つもあった。卵の数にして5/9個。同じ時に産卵したと思われるものも有ったし、新たに加わって産卵したものもある。又、コアシサシとシロチドリが一つがいずつ、あるいは、コアシサシ二つがいにシロチドリ一つがい、合計三つがい一つの鳥の中という例もあった。こういうものは一般的に鳥が大きい。同居の傾向は、コアシサシの方がはるかに強く、シロチドリの同居は二、三のみであった。そして、数個の卵を残して皆無事に孵ったのである。



“生きている”卵(左)と“死んでいる”卵(右)

生きている卵は、斑点、模様等がはっきりと上がっている。地表も日光の反射も一面的でなく、砂もやわらかい。丁度ジュークツツを逆さに撫でるよう、あるいは土起しをした細を遠くから見ようといった。死んでいるコロニーも、全然、あるいはごく少く、所見も砂も、ビタリと萎んでくついている。感。だから地表全体が平面的で固く、光の反射も一面的で、生きているものよりまぶしい。貝と砂がなる小さな凹凸が無い。めだら。水を流したあとそのままに、ジュークツツの毛をビタリと撫でつけたよう。

新しいコロニーで、地面が白っぽくして明るく、そしてやわらかい。見張らしもさくし、広々として植生は全く無い。コアシサシもシロチドリもこの時に最も多く営巣する。特にコアシサシはそうである。月日を経ると次第に雨や風で地面は削られ、土野が広がり、

コロニーができてから、月日が経つに従って起る変化の傾向

植生	営巣開始	営巣終了
少	→	多
多	←	少
弱	→	強
強	←	弱

コアシサシ 営巣数は次第に減少する。
シロチドリ 営巣数は次第に増加、後急に減少する。

(貝が積もっているという表現は適当でなく、実際とその数から言おうとする間違っている。非常にゆるやかなスロープを描く斜面あるいは丘か台地の様な所。植生は全く無い。か殆んど無く、あつても周辺から遠い所、見張らしの良い、明るくて広々とした所である。京葉港においては、まさに繁華の海岸とも言ふべきコロニーの大集団が見られた。地面は多少凹凸の有った方がよく、斜面と展望は南(海)に向っている所によく多く、赤茶色した。地面の色には、白っぽい砂が、灰色、赤茶色、赤茶色と続く。こういう所ではコアシサシが多数を占め、特に周辺部ではシロチドリ、コチドリをはるかにしのぐ。葛西西部では、貝が少なくかわりに小石と玉砂利がとて多く、色は赤茶色で他より貝をよく敷いてあった。ここでも非常に多くの営巣といつものコロニーが立派に形成されたのである。

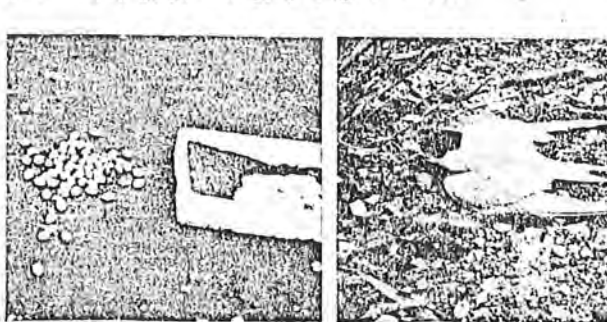
鳥 2

鳥の大小と深淺―地面の乾燥―貝殻の敷き具合
コアシサシの卵は概して小さく、そして小さいので地面から卵を出し、見つけやすい。全く穴を掘らなかつたり、貝殻も敷かず、無造作に産卵するものも多かつた。足がめり込む程に水気の有る所でもドク／＼営巣した。しかし、大体そういう所は貝殻を敷くものが多い。シロチドリの卵はコアシサシに対して、深く大きい。時にはバカでかく、地表よりかくれているものが沢山有った。貝殻も少なく、コチンと敷く傾向はコアシサシより少ない。果は穴も感じられるものも多く、湿気が有ったり黒っぽい地面の所、地理環境の悪い所でもよく営巣する。コアシサシの果より冠水の危険が少ない所が選ばれる。

する。でないと、雨や風で果の形がくずれたり、貝殻や砂で埋つてしまふ。コアシサシの方がシロチドリよりも良く手入れをしてあるし、きれいに掃き清められた感じで気が持たなかった。そこへ行くともシロチドリは不慣れ、貝殻や砂がつかまわつても大した気にしないようだ。両方に見られることだが、一度産んだ卵を、一つ、あるいは全部をかっぱいて出してしまふものも多かつた。何故だろうか？又、出した後方か、あるいは一個か二個、そして全部の卵が孵ったあとに、その分だけ、一ないし三個の貝殻の大きな小石が入っている。キチンと敷く見られるに掃除されて入っているのがかなり見られるのである。一個卵が孵ると小石が貝(ほぼ完全な形)が一個、又二個目以降とさらに一つという具合に。何故こんなことをするのだろうか？

空果の数は実際に卵を産み込んだ果営巣数に比べ、大体5/7倍作られた。特に、繁殖期間の前と後の方に多かつた。

コアシサシやシロチドリの卵の色は、果のまわりの地面の色に似せて産む傾向がはっきり見てとれた。コアシサシがシロチドリよりも多くの貝殻を使用するのは、コアシサシの卵が貝殻の色や模様に近いせいかもしれない。又、シロチドリの卵は貝殻の色に似ておらず、赤茶色や黒い。コアシサシの方が、色や模様の変化に富んでいて、うす緑、白っぽいもの、赤茶色などがある。又、大ききもまちまちで、シロチドリよりも小さいものから、普通の二倍位のものもある。形からしてズンダリした中太のものや、長方形の如くズドンと長いものがあり、全く千差万別で同じものは一つとして無いのではないだろうか？



いたづらに集められ、捨てられていたシロチドリ等の卵、なにに傷ついたのか、うずくまっていたまま動かないコアシサシ。

鳥 3

鳥の手入れ―果の中の小石と貝―空果
コアシサシ、シロチドリ共に果の手入れを、すばらしい勢いで盛り返していった。人為的影響とこの環境に対する抵抗力も回復力も、コロニーの規模が大きい程強く、そして早かつたのである。葛西、京葉港とも一三の例外を除いて、目を覚ますばかりであった。土手や水たまりなどの遮断物、そして人為的影響を与えるものは、北側、海と反対側にあった方が営巣の条件としては良かった。

鳥 4

鳥の保護色―足跡―カチンカチン
工事責任者、事務所、守衛、作業員、ダンブやブルドーザーの運転手など、関係あると思われるあらゆる人達に話を聞いて、ビタリ配った。一通りやれるだけのことはやって来た。そして効果は大きかつたのである。カチンカチンと歩く音や鉄砲打ちもいた。なおその音を流している人や鉄砲打ちもいた。なおその他に、オオヨシキリ、セッカ、ヒバリ、ミンタイナ、カイツブリ、カルガモの巣やヒナ、

あるいは卵を取る人にも注意を促していった。保護とか監視は私の今回の調査の目的ではないが、一人であつてもついでにやつたのである。とくに近所の小学校で、卵とりをやめるように児童に話をしてもらつたところ、ほとんど卵に対するいたづらがなくなった。

私は、自然保護や野鳥、生態や干潟のことは何も知らない。学術的な調査や研究のためにやつたのではないし、その資格もない。私は自然保護の通でもないし、空聞やサロンの人間でもない。油臭くてハニのいる台所にも入ってゆく。以上は私が見て接して来たことを大雑把に書いたにすぎない。全ては営巣の一点に注がれ、他の何十というものはわきまへどかさざるを得なかつた。本当はもっと歩きたかつた。私がこれをやつた原因と動力は、もともと、今は厚いコンクリートやアスファルト、土の下になつてしまつた数か数かな、干潟での少年時代が埋もれているからだろう。私は谷津干潟に対して何もして来なかつた。

「野鳥」52年4月より転載
「小かんぞ」18号・25号参照
スペースの都合で字を小さくしてあります。でき、貴重な記録であり、二度と体験する事はない。

へ小かんじ...谷津干潟に、大きな海がメヤイルカ、トビウオやタシノオトシゴが泳いでいた頃...

ふかんど

第27号

1981年 8月29日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-1-1666
文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

入浜権宣言

古来、海は万民のものであり、海浜に出て散策し、景観を楽しみ、魚を釣り、泳ぎ、あるいは汐を汲み、流木を集め、貝を掘り、のりを摘むなど生活の糧を得ることは、地域住民の保有する法以前の権利であった。また海岸の防風林には入会権も存在していたと思われる。われわれは、これらを含め「入浜権」と名づけよう。今日でも、憲法が保障する、よい環境のもとで生活できる国民の権利の重要な部分として、住民の「入浜権」は侵されてならないものと考えられる。

しかるに近年、高度成長政策のもとにコンビナート化が進められ、日本各地の海岸は埋立てられ自然が大きく破壊されるとともに、埋立地の水ぎわに至るまで企業に占拠されて、住民の「入浜権」は完全に侵害されるに至った。多くの公害もまたここから発している。

われわれは、公害を絶滅し、自然環境を破壊から守り、あるいは自然を回復させる運動の一環として、「入浜権」を保有することをここに宣言する。

昭和50年2月21日

取りもどそう、海どのかかわり 第四回入浜権シンポジウム

会期	1981年8月22日(土)午後—23日(日)
会場	神戸市立舞子ビラ(宿泊とも)神戸市垂水区東舞子町18-11(電)078-706-3711
主催	入浜権運動推進全国連絡会議・入浜権研究法律家グループ
協賛	「取りもどそう、海どのかかわり」
目的	入浜権を確立するために—入浜権行いまむかし
22日13:00	開会 挨拶……………法律家グループ代表世話人・田中 唯文
13:30	発題報告 「入浜権行蒐集と第四回シンポの意義」 連絡会議代表・高崎 裕士
14:00	報告 「各地の入浜権行(現在の海岸利用含む)」法律家グループ・前田 貢 ほか 高砂の会や法律家グループ等団体の蒐集調査から、連絡会議に寄せられた投書から、その他、出席者から海どのかかわりについて入浜権行や思い出、海浜の利用状況を発表してもらい記録する。
16:30	特別報告 (1)「神社の神事に見る海浜の意義」 郷土史家・明石南高教諭・玉岡松一郎 (2)「渚と釣りびとの長い関わりあい—文献に見る江戸時代からのアオギス釣り」 日本なぎさ保存会関西事務局長・小西 和人
18:00	夕食 (食後、舞子海岸を散策)
19:30	特別報告 (3)「大阪湾域の沿岸利用と環境計画の関係について」 (共同報告・スライド使用) 神戸大・大阪芸大講師・H. シャピロ 神戸大学工学部環境計画学大学院生・岡本 祥浩
23日 9:00	特別報告 (4)「アメリカの沿岸計画者の目から見た日本の海岸問題」 California Coastal Commission, Principal Planner, Thomas A. Zanik (カリフォルニア沿岸保護計画委員会、チーフ・プランナー:T. ザニク)
討議	「入浜権行をもとにどのように運動をすすめるか」 助言 法律学の立場から 立教大法学部教授・淡路 剛久先生 民俗学の立場から 民俗学者・谷川 健一先生 地域計画学の立場から 長崎総合科学大学教授・白砂 剛二先生 全体のまとめ
12:00	開会行事 決議・アピール等採択 (12:30 閉会)
14:00-18:00	ポートピア81 批判的見学会 その後宿舎(神戸海員会館)で討論集会

充実した、とても有意義なシンポジウムでした。高砂の皆さん、本当に有難う。感謝。

八月に第四回入浜権シンポ 海辺の生活 古今東西

初めての入浜権行の
全国調査開始



写真提供・山崎雄一
撮影・魚住彰

入浜権運動推進全国連絡会議はこの八月神戸で、入浜権研究法律家グループと共催して第四回入浜権シンポジウムを開く。テーマは「入浜権を確立するために—入浜権行いまむかし」でこれに、海浜とのかかわり取り戻そう、というキャッチフレーズが付く。

別種のものとして、ここでは扱わないことにする。
様々な海浜利用
入浜権運動が兵庫県高砂市で生れて七年を過ぎるが、早くから入浜権行の蒐集調査は運動の重要な部分を占めていた。昭和五〇年九月の「一〇〇人証言葉—高砂の海いまむかし」の発行は大きな意義を持つ。そもそも入浜権という言葉自体が、古老の語る「以前は嵐の後などに浜に出て流木を集めて焚木にしたり、打ち上げられた貝や魚を拾った」という話から、山林の入会権に似たものが海浜にも存在したと考えて着想されたのであった。その後運動を進めて行く中で、入浜権は入会権よりはもっと幅の広いものと考えられるようになって来ているが、入会権的

要素は依然重要である。
そして当時、私にはそれをさらに多くの人々の証言によって裏づけようと思ひ、五〇年の初夏から聞き取り作業を行った結果が「一〇〇人証言葉」である。その証言内容を分類すると、
① 民俗行事や古くからの慣習と考えられるものとして寄りもの拾い・節供(しんがさん)にちその他・土用の丑の尻つけ・精霊流し・大晦日の拾掘り・秋祭りのみこし洗い・弁天祭、② 近代的なレクリエーションとして、海水浴・潮干狩り・釣り・散策があり、その他地形・景観に関するものや生態系に関するもの、精神性、教育的価値に言及したるものになる。
これによって海浜というものが、明治以降、海水浴などで民衆の最も健全なレクリエーションの場として親しまれてきただけでなく、数々の民俗行事や神事の形で古来住民の日常生活にも精神活動にも切りはなせないものであったことがわかる。すなわち海浜は単に生産のためだけでなく、民衆の休息・交歓・信仰の場として、物質的にも精神的にも海からの恵沢にあずかるところであったのである。

環境権の壁の突破口
その入浜権行を今夏のシンポジウムであらためて取りあげることにし、高砂の証言葉に加えて、全国の慣行蒐集の活動が取りこまれて、そのわらいは何なのか。
最近、自然保護や反公害の住民運動は困難な状況の中にある。環境権裁判もまた各地で苦戦を強いられている。そんな中で理立てて海岸環境に反対して闘っている人々の目から見ると、民俗学的手法を用いての入浜権行蒐集調査はきわめて迂遠なものに見えるかも知れない。はたしてそうか。

この本から釣りのシーズンです。例年ゴミがたくさん出ます。釣り人のゴミも拾いましょう。

「渡り鳥は見られず」

谷津干潟に、渡り鳥の観察に
のではありません。

谷津干潟に、渡り鳥の観察に

訪れた野鳥の会の会員が、
年を遡って増えております
。しかし、ゴミが散らかっ
ていても、捨てて置けるの
見ても、又、カニや魚、鳥
私産は注意して置きます。

谷津干潟に、渡り鳥の観察に
のではありません。

谷津干潟に、渡り鳥の観察に

京葉地帯

全シースンにわたり海鳥調査

「荒廃の干潟」の野鳥の生きざま



きよとも埋め立て地で野鳥の営巣状態を調べる森田さん。船橋市の京葉港造成地にて

【船橋】東京湾の奥陸部といわれる東京湾の造成地。幕張、浦安、葛西などの埋め立て地は、野鳥の会の機関誌「野鳥」に掲載された。そして「これほど広範囲といわれているが、こどもいま全シースンにわたり調査した記録は日本でも初めて。貴重なもの」と

二年間コツコツ

船橋の二万個の卵見守る 一青年

注目を浴びている。愛護週間における野鳥と自然の保護に情熱を傾ける青年の話。青年は千葉の干潟(ひがた)を守る会の会員で、谷津干潟愛護研究会会長の森田三郎さん(市川市本北方ノ三五六)に誘われて、船橋市。少年のころ、すぐ近くに海があった。学校から帰ると方々にコアシヤシやシロドリなどが

「敏感な調査シリーズ」 連絡は 森田三郎

おもしろい本です

「現代生活と ストレス」

ハンス・セリエ

「ヒトラーユークメント」

ヤーコフ・ザール

「実業五十年」

藤原銀次郎

随想

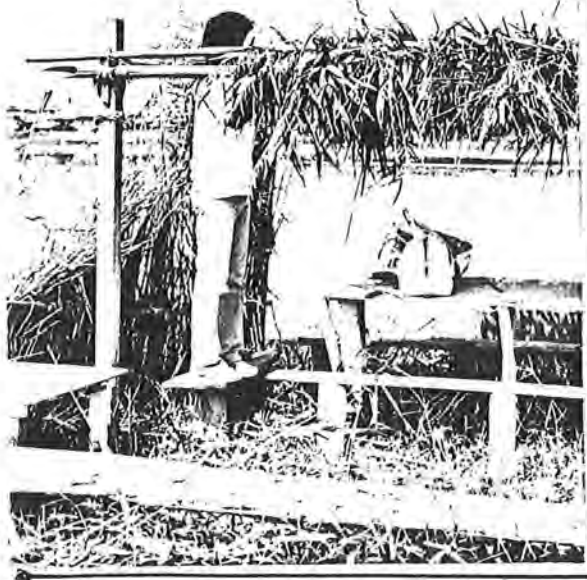
自然保護運動の活力、 ぎ頃の想い出、 フとめ帰 精神力の源と泉、 イハは、 リの母の、 「あのかかん 松の場合、 孤独と静寂に だ後姿一背中」をフト思 ヲの根柢をなす。 う時である。 心の平安こそ、 燃ゆる イハは、 私をとりまく が如きバイタリティとい すべてを洗の流し、 私を ススピレイション、 集中、 あよべを祈におき、 何 ヲの根柢をなす。 者であるかを教える。

時々こんな事か...

(ヨミウリ 55・525)



く工人小屋の修理 谷津干潟の名物。学星が手 依ってくれました。

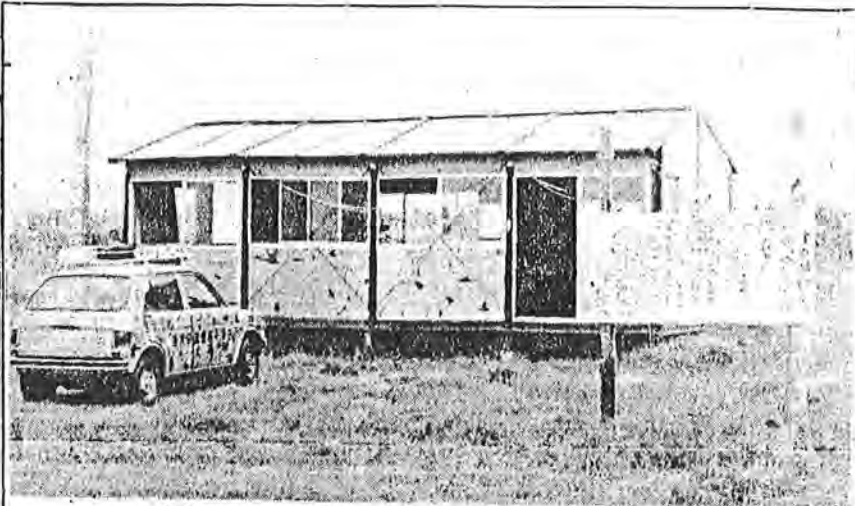


「私は自然保護の野鳥、干潟について専門家でない。こころの記録も学術的な調査や研究のためにはなっていない。その資格もない。干潟で遊ぶ少年時代を振り返ったのです。それにしてもコロニーの営が毎年増え続け、カスミ織を張ったり、鉄砲で撃つ人もいた。野鳥の巣や卵を大切にしよう」と、森田さんは強く訴えています。

谷津干潟の鳥の情報

八石川勉氏の調査による

シロチドリ 122
 メダイチドリ 504
 ダイセン 189
 キヨウジョ 109
 シギ 484
 トウネン 9
 ムサグロ 9



近く自主撤去される谷津干潟野鳥観察舎—8月7日写す

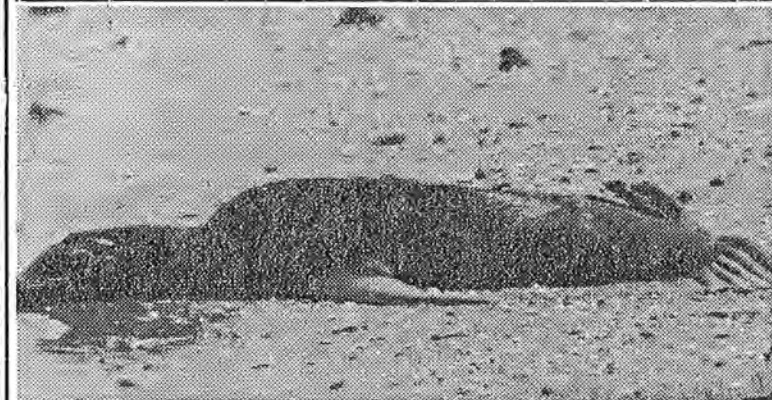
チュウシャクシギ	9	キリアイ	1	キアシシギ	227
ホウロクシギ	4	オバシギ	19	アオアシシギ	43
ソリハシギ	22	ミュビシギ	2	ハマシギ	8

習志野にオットセイ

井は、谷津干潟の東水路出口に近い砂浜である。

朝日新聞 一九八二・五・二八

京葉港に姿をみせたオットセイ—習志野市西浜で、市川市本北方千目、森田三郎さん写す



彼は自由を楽しんでいる!?

よほど、ここが気に入った。グー、昼夜を繰り返していた。荒井会員の通報を受けた。

はぐれオットセイ

「あれ?! 見慣れない海獣がいる—」。さる日、習志野市西浜の京葉港に、野生のオットセイがいるのぞき、「谷津干潟」を守る運動を続けている森田三郎さん(57)が見つけ、カメラにおさめた。この珍奇、ゆづり干潟内を泳いで魚を食ったり、砂浜で昼寝したり、愛敬たっぷり。人が近づいても逃げず、かえってキバをむいて向かってくる。オットセイは、森田さん(57)の観察によると、オットセイは体長約二メートル、黒っぽい茶色の毛皮に身を包んで泳いでいた。二匹の距離に近づいても逃げず「フー」とキバをむいて威嚇する。オットセイは元来、エサが豊富なところで生活し、同港に迷い込んだら、森田さん(57)が救助した。



国は推進、渋る習志野市

下水工事費負担で暗礁に

問題となっている谷津干潟は京成線谷津遊園駅から徒歩十分ほどのところにある。東京湾の奥に位置する唯一の干潟で、面積は十三万平方メートル。秋から冬にかけてシベリアなどからカモ、サギ、チドリなど二十数種類の渡り鳥が飛来し、中にはフクロウ、オオストリなどまで越冬するために立ち寄り、中には産卵もみられる。ビークルになると数万羽にも達する鳥が集まり、わが国でも屈指の「野鳥天国」として、その価値は高まるばかりである。

習志野市では昭和五十三年以来、直接または千葉県企業庁を通じて、習志野市に対し、同地域を同設鳥獣保護区域に指定して谷津干潟の自然とそこに生息する鳥類を守ろうとする意向を示してきた。もし同地域が保護区域に指定されれば、鳥獣保護法により捕殺の禁止や鳥類の繁殖を促すための施設の設置などができ、鳥や愛鳥家にとっては自然破壊から守る力強い「パルク」になる。ところが、習志野市はこの同設鳥獣保護区域に指定する意向を示さず、第一に干潟に流れ込んでいる下水処理工事の費用をどうにか出すかという問題である。この下水の放つ悪臭に付近の住民

から苦情が頻出しているが、その処理に膨大な費用がかかり、同市としては国が保護区域に指定するならば国の予算で断って欲しいとの意向を示した。ところが、国は習志野市の予算で処理をしてもいいとの意見で、双方の見解は平行線のまま。

また習志野市としては干潟を埋め立てて公共用地として利用したいとの都市計画も持っていることも上げられる。同市としては市民の生活も考慮しなければならぬ。鳥獣保護一辺倒というわけにもいかないらしい。

この結論については日本野鳥の会千葉県支部の高橋敏夫支部長は、「自然保護のためとはいえ、非があるのは当然だ。観察舎を撤去することにより、正法でこれからは本格的な活動が始まる…」と語っている。

森田三郎さんは「この問題を一般の人びとに訴え、世論にまで高め、市や県、国へ働きかけて、失われゆく谷津干潟の自然を守ってゆきたい」と、意欲を燃やしている。

…とととと
 下水対策
 は、自治
 責任で行
 うとのなの
 ですが—。



渡り鳥の生息地として愛鳥家の間でよく知られている千葉県習志野市の谷津干潟の保護区域指定化の是非をめぐる、ホットな論争が展開されている。習志野市は習志野市に對して、開設保護区にしたい、との意向を示したが、習志野市はなかなか首肯を返さず、いた民間自然保護団体は、保護区域指定に全面的に賛成で、市民に呼びかけ、谷津干潟の開設鳥獣保護区域指定実現へ向けて運動を開始するという。果たして、同地域が保護区域に指定されるかどうか。当分習志野市と習志野市とのかけひきは続きそう。

野鳥天国、谷津干潟

(世界日報 56.8.17)

なるか「保護区域」指定

● 毎週日曜日は、「谷津干潟・ボランティアの日」です。レポトリィは広い。どなたでもおいでなさい。



野良仕事を終えた父と母
二人とき、農家の出。近くの
人が、タタで畑を使わなくて水
る。私と時々手伝わされる。



干潟の思い出

(日本野鳥の会・千葉県支部報
「ほおじり」No.6・7より)

森田三郎

京成電車のセンター競馬場駅前(旧駅名は「花輪」)には、カワセミがいつも見られ、どこまでも続く遠浅さの干潟には、生き物がたくさん見られたそうです。

そんな頃の船橋市に育った、森田三郎さんは、今でも、心の中に《干潟》を大切に持ちつづけています。森田さんの活動の原点は、幼い頃に豊かな自然の中で、イタズラしたことにあるのでしょう。森田さんに、昔の干潟で遊んだ頃のことを書いていただきました。

—三郎、母ちゃんはよ、お前が夕方暗くなってから、海から遊んで帰って来たら、それで垣根のあつちから、「かあちゃん、ただいま」って言ってな、ニッと笑うんだよなあ。そんでな、お前を見るってえと、まっ暗いなかよ、ちょっとわからねえんだよ。そんとな、お前の目と歯だけが白くってよ、つつ立ってんだよ。母ちゃん、ギョッとしてよ、がっかりしちゃうんだよ。これが、わたしの生んだ子かしら、って思ったよ。

—お前は、母ちゃんこ、よくぶんぐられたって言うけどよ、お前のイタズラってきたら、一通りじゃなかったんだ。んだけどなあ、母ちゃん、お前が憎くてぶつたことなんか一度だってねえど。

あん時、貧乏してた。着るもんなんか、あんまりなくてな……。んで、母ちゃん、いろいろ工面してよ、朝、ちゃんと服着せてやってもな、夕方疲れて仕事から帰ってくるとよ、お前はきつたなくなつて、服なんかカギ裂けだらけでよ……。わが子ながら、乞食か土人みてえんだよ……。垣根の木戸んそばにはよ、お前がしてかし

たイタズラに文句言うべえと思ってなあ、近所の人立って待ってたんだよ。「お宅のサブちゃんを野放しにしないでよ」なんて、何回言われたか分んねえんだ。

庖丁なんて買ったって、すぐノコギリみたくしちゃうしよ、台所のオケだつてザルだつて、みんなデコボコで生臭えんだもん……。

—すげえかつたんだから、お前は……。んだから、母ちゃんヒステリーなつちやつてなあ、手近かにあるもん取つて、たたいたんだよ。そんなことだから、うちのハタキだつてホウキだつて、すぐ、ぶつくれちゃうってな、まちょうな(「ちゃんとした」の意味の方言)もんねえんだよ。しょっちゅうだから、母ちゃんの手も痛えしなあ……。

—んでも母ちゃん、お前が疲れて死んだように寝ているその顔見とな、泣きながら寝たもんだから、涙の跡が残ってたんだよ。んで、母ちゃん考えちゃつたんだよ。あんなにまで、なんで怒つたのかって……。

お前がこんなにまで遊ぶのもよ、うち帰つて来ても母ちゃんはいねえから、母親として何もしてやれねえしよ、オヤツだつて、遊ぶオモチャだつて買ってやれなかったもんな……。親の目から見ても、お前はずいぶん殺生なことをしたけどよ、そんなお前に、アレもするな、コレもするなって言つたんじゃ! この子はいったい何をして遊んだらいいのかってな……。

時々お前はよ、夢見て泣いてよ、母ちゃんせつなかつたど……。もとはと言え、みんな母ちゃんだったんだよなあ……。そしたらよ、母ちゃんよ、涙が出て来ちゃつてな……。

随想

「おふくろ、オレに巧徳、を積ませろッ、。そう言ッて肩をささむ。テレかくー

だ。二〜三回手を動かせば、ど水くうり肩がこつてりるか、すぐ巾かす。少時くすと、だんくと母の肩がやわらかくなつていくのだ。〃この世にオレを産んでくれたこと、一言で言えはそれを感じている。——とこころで、母に、母はどう思っているのだろうか。

草モクを作った母

草を近くの田んぼや野からとってくる。作りながら信州の故郷を想い出すのだ。



ふかんど

第29号

1981年
8月31日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五ノ六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

八千潟の後背地、草はらサア三原、沼なぞに、キャンシマの大編隊が見ら小た垣り谷津干潟

谷津干潟よ 甦れ



多くの家の南側に、ひと際大きな楯が海に向かって立っていた。少年時代、木の葉に顔をくすぐられながら、私はよくその楯に登った。登れば海があった。広くて大きな干潟が見えた。私は楯に登るのが好きだった。広い大きな干潟が見えるから好きだった。どんなに怒られ、何回父にぶんどられたって私は楯に登り、一人勇壮な気分が湧いてきた。当時、私は両親が働いている貧しい家の一人の少年だった。

マキ割り、水汲み、庭そうじ、朝夕のご飯とおつけをつくることなど、それらは子供の仕事だった。家の用をきちんとして、親が帰ってくるのを待つのはいい気分だった。でも、そんな日はかりではなかった。干潟で、沼やヨシ野で、野原や小川で、私はたくさん生きものたちと、すつ飛び遊んでいた。うちの用もせず、日暮れまで遊んでいた。私は叱られ、はだして家を飛び出し、夜の海辺や高い楯に登っては海を見て泣きじゃくっていた。

夜の木の上、暗いしげみから、家中うまそうに夕めしを食べているのをじっと見たこと、そんなことをしようこりもなく繰り返していた……。

(森田三郎ノット「谷津干潟の思い出」より)

夏の埋め立て地は砂漠のように暑い。眩しい目がくぼんでくる。ただ黙々と、エンピツとノットを持って一人歩いた。調査距離、約一千百km。それをもう三年も続けている。すべては環境保護の資料にするためであり、谷津干潟が野鳥にとりていかに大切な休息地、採餌場であるかを証明するためだった。七十六年の調査では全部で二万一千六百九十個、谷津干潟周辺には六千近くの卵があった。

年々減っているから調査はだんだん楽になると、

森田さんは淋しそうに、怒ったようにボツリ「埋め立て地全部を残してくれ、開発はいけない」といっているんじゃない。干潟の周りに少しだけいいから、シロチドリたちが卵を産める所を残して欲しいんだから、保護して人間の力を圧倒的に強いんだから、保護してやらないと全滅の一途です。県の企業庁に陳情に行くと、無料で提供するわけにはいかなないの。辺境、買うと何億。とても買えない。

森田さんの運動はすべて無報酬。費用は自前である。干潟の周りに百三十本の立て札を立て、二百本の木の苗木を植えた。流木を利用して、干潟を訪れる人のためにベンチとテーブルを草むらに作った。その数四百四十個。その他、ピラを配る、干潟の掃除を毎日するなど、無私な行為といえる。努力、悲願ともいえる情熱に、ただ敬服し、圧倒されながら胸が熱くなる思いであった。

新聞や雑誌にすでに発表されたが、去年の六月、日本で二番目にセイタカシギの孵化に成功したのも、ひとえに森田さんの尽力にかかっていた。

これもこれも新聞店に勤務しながら、干潟を守る会にも入っていたけれど、だれに協力を求めるでもなく一人したことであった。それが事の提供が現れ、一般の賛同者も少し増えてきた。

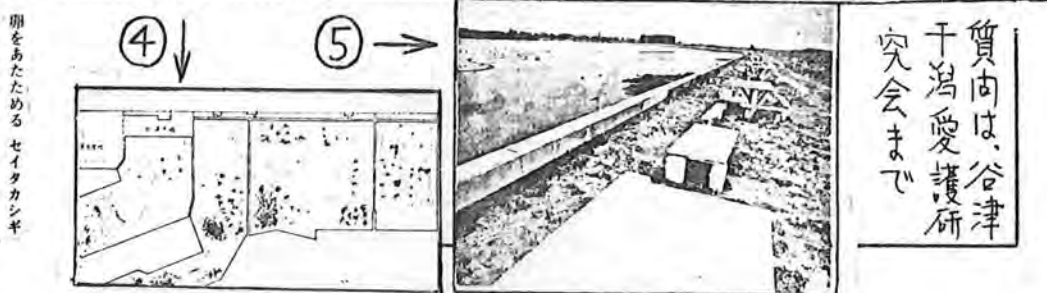
「なにがなんでも一人で、というわけじゃないけれど、一人でもやるという気持ちでスタートしました。だから手伝ってくれた時は、ホーナス、ですな」

今年三十四歳、本の好きな人である。政審は約四万冊。地蔵が来ると本に埋もれて死んでしまうのもう一つ別に小さなアパートを借りた。おもしろくなくなって大学を中退後——高校も大学もすべて自力で行った——約十年間、朝夕新聞配達を続けながら好きな本を読みあさり、買い求めるためにほとんど東京中の古本屋を歩いた。今はそれもやめた。

谷津干潟を守る会、野鳥を守る会(森田さんも両会に入会している)、その他保護団体の努力の甲斐あってか、来年、ようやく谷津干潟は国鳥保護地域特別地区に指定されることになった。一歩前進——。しかし、それで解決はしたわけではない。鳥や魚が安心して生活できる谷津干潟は、まだまだ遠いのだ。営巣のジグザグ調査は今年もやる予定である。

やさしくも強靭な人、いや少年だと思ふ。「鳥の観察をしたり、カメラを構ったり、そんな楽しみは全部、ノシをつけて人にあげます」

1千葉TV
1ネットワーク・千バ
54・2・NO 23



質由は、谷津干潟愛護研究会まで

学校から帰るや、緑側にカバンを放り出して、森田少年は毎日のように、鉄包玉のように干潟めざして走った。田んぼを突切って、野原を突切って、草原を突切るとようやく砂浜に出る。砂浜に向こうに、干潟はかけろうで大きくユラユラ揺れている。灼けた砂をかつき上げて一目散に海へ出ると、干潟は急にワイドスクリーンのように広がった。

干潟には機織りもの鳥が翔び交い、魚が群れ泳ぎ、提防を境にして、内陸には野原や田んぼが広がり、昆虫が飛び、花が咲き乱れていた。干潟一帯は真水や土に棲む生きものと、海の生きものがうごめいている。まさに子供たちの楽天地であった。

開発、開発で時が流れ、楽天地、干潟は次に埋め立て地と化し、工場が建設され、公団住宅や家が建ち並んだ。森田さんの少年時代は、コンクリートの下に埋もれてしまった。四年ほど前、新聞の写真から、現在の谷津干潟がかつて「ふかんど」と呼んでいた所だと分かった。

ふかんどは残っていたのだ。懐かしさと共に、昔の思い出が蘇ってきた。同時に変わり果て、ゴミを捨てられ、下水をたれ流され、黒く汚されてしまった「ふかんど」が埋め立てられなかった。また、埋め立て地の下に沈んでしまった魚や貝たちのことを思うと胸が痛くなった。

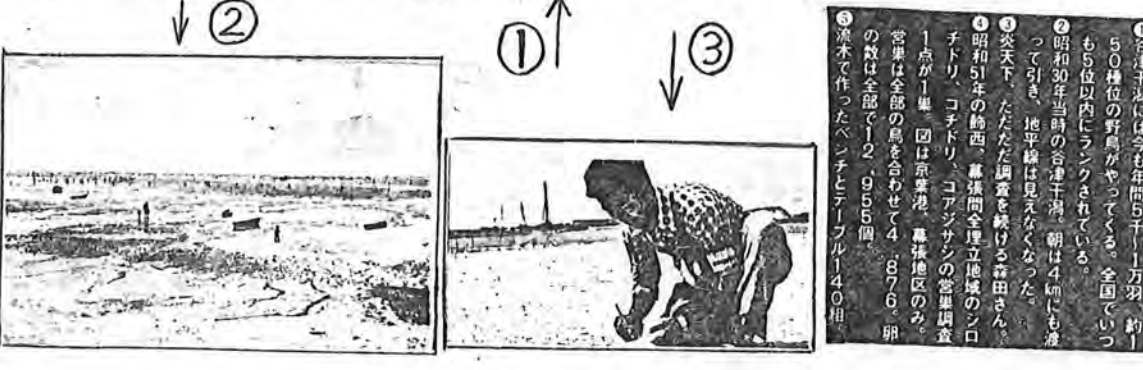
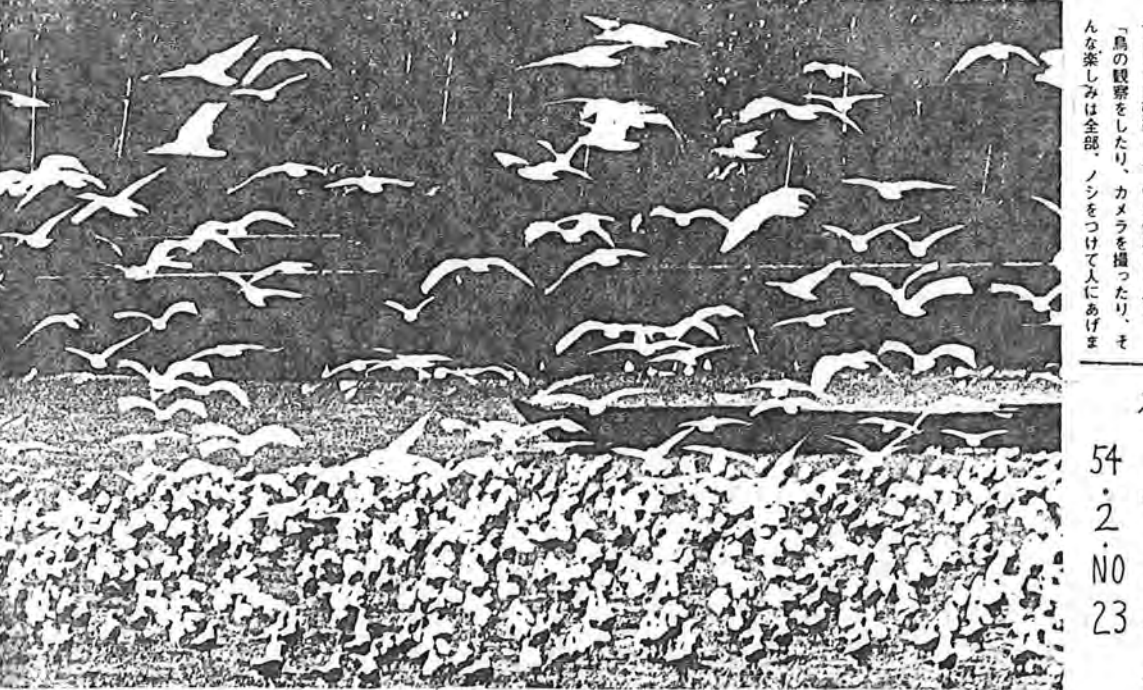
思い立てば失の如し。森田さんの谷津干潟を守る運動が始まった。干潟は何百分の一に減ってしまったけれど、鳥や魚たちはまだそこで生きている。ただ残したい、守りたいと思った。単に自分だけの思い出だけに留めたくもなかった。かつて干潟で遊んだ人間の一人として、今の子供たちに残してやりたいと思った。

森田さんの活動の徹底、猛烈ぶりは驚異的である。

最初に断行したのは、越前から幕張までの全埋め立て地域二千五百に渡ってシロチドリ、コチドリ、コアジサシの営巣状況を、四月から八月の産卵期にかけて、シラミつぶしに歩いて調べるという調査であった。巣を見落さないためにジグザグに歩く。それを荒川から幕張までやると7、8日かかる。終るとまた最初の地点に帰って同じことを繰り返す。それを八月の終りまで続けると、そのシーズンの巣の数と分布状態が分る。こんな気の遠くなるような調査は、もちろんだれも併戦したことはない。

「なにがなんでも一人で、というわけじゃないけれど、一人でもやるという気持ちでスタートしました。だから手伝ってくれた時は、ホーナス、ですな」

今年三十四歳、本の好きな人である。政審は約四万冊。地蔵が来ると本に埋もれて死んでしまうのもう一つ別に小さなアパートを借りた。おもしろくなくなって大学を中退後——高校も大学もすべて自力で行った——約十年間、朝夕新聞配達を続けながら好きな本を読みあさり、買い求めるためにほとんど東京中の古本屋を歩いた。今はそれもやめた。



「谷津干潟ボランティア」についての連絡は 0474・51・7054 (長塚) , 又は、0473・38・6668 (森田) まで。

へ小かんどりーヨシ野の中の水たまりで、マジチ箱大のカメガキでたくさんとれた頃...

ふかんど

号30号

1981年
8月31日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二ノ三五ノ六
〒272 電話0473-31166六六八
文責 森田 三郎

2000年読

PRINTED IN
ふかんど

赤旗
八七八・五二八

すみかを追われる渡り鳥

干潟と野鳥



千葉県幕張・谷津

十日から、幕張湾。しかし、野鳥が営巣し、ひなを育てる干潟は、草地、森などは次々に埋め立てられ、切り開かれ、生息する場所が少なくなっています。はるばるペリヤや南洋諸島などから渡ってきた野鳥たちの姿を、千葉県幕張、谷津の海岸に見てみました。

砂地にわいた卵が三つ。立地が沖の方へ延びています。タンポコやタイチ草を這って埋立地をいくと、頭上に「コイツ」と囁き声がして、コイツが飛んでいきました。シメ



森田三郎さんが調査している埋め立て地(黒い部分)



シロチドリと卵の数を記録していく森田三郎さん(千葉県幕張の埋め立て地で)

リアから渡ってきた鳥です。あたり一面は砕かれた貝殻が

立地の野鳥を調べている青年。干潟の保存・保護に情熱を傾けています。

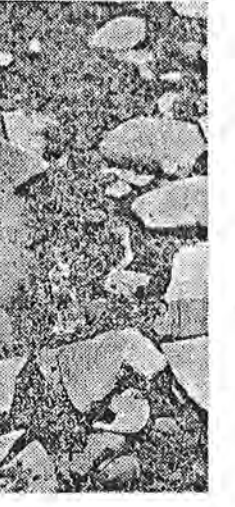
「シロチドリは干潟の鳥。カニやゴカイ、小魚などを食べているんですが、その食べがな

「キー」「キー」。アシサンが数十羽、水辺から飛び立ちました。ユリカモメやハマシギもいます。潮を見ると、大きなしゅんせつ船が二隻、海鳥の砂をさかんに掘っていました。その海水まじりの砂が太いパイプで埋立地に送られ、干潟がどんとつぶされてしまったのです。

高野埋立地は全滅かも... 高野埋立地は全滅かも... 高野埋立地は全滅かも...

ブルドーザーが地ならしした埋立地にシロチドリの卵が...

まじった砂地。ブルドーザーのキヤタビの跡が縦横に走っています。よく見ると、その近くに砂地をおわん型に掘ったシロチドリの巣があり、かわいらしい三つ並んでいました。この鳥はオーストラリア、ニューギニアからきた渡り鳥です。「砂や貝殻の殻にまみれているから、卵の殻がなにより注意してください」。幕張の森田三郎さん(千葉県幕張の埋め立て地)は三年前から幕張湾の干潟埋



谷津干潟をぶさらないで、東京湾の干潟のうち、埋め立てられずに残っているのは谷津干潟くらいなもの。その貴重な干潟も安全とはいえない状況です。周囲の干潟が埋め立てられ、たまたま、同干潟だけは国有地だったため残りましたが、湾内野鳥の糞排水が流れ込み、くまににおいがたちこめています。そのため同市が埋め立てを要求しているのです。

繁殖調査随感

首都圏の目の前、それこそすぐ足ととに、一〇〇〇〇東以上の渡り鳥の繁殖地があったとは、誰と信じないだろう。私がやって来た、このような調査、その体験は、とはや誰と、やって二度とめぐり合うことなどないだろう。

今や消滅し、過ぎ去ってしまっただけは、埋め立てという、巨大な開発のハザマ。一時のアダ花。だったのだろうか。それは十分承知していた、わかっていた



ヨシサシのひなが親鳥をよんでいます。

。ただ、私としては、その奥底を、ありさまを確と把握しておきたいと思ったのである。

ホシのフガの向の、彼ら渡り鳥の「生きざま」を、一ツカリと、目で耳で、足と鼻で、全身をこらして見とどけたかったのである。個人、非力ながら、能う限りの力をそらに打ち込んだつもりである。想うに、私は「幸運」だったのである。

繁殖調査シリーズ④ これについての問い合わせは、森田三郎まで。

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会



その昔、富津から市川にかけての海沿いの七六は気も違くなるよらな広大な「ふん」と呼ばれる干潟であった。

私のカレンダ―

「谷津干潟を守る会」 森田三郎さん(34)

魅れ! 谷津干潟

無策に怒る熱血漢

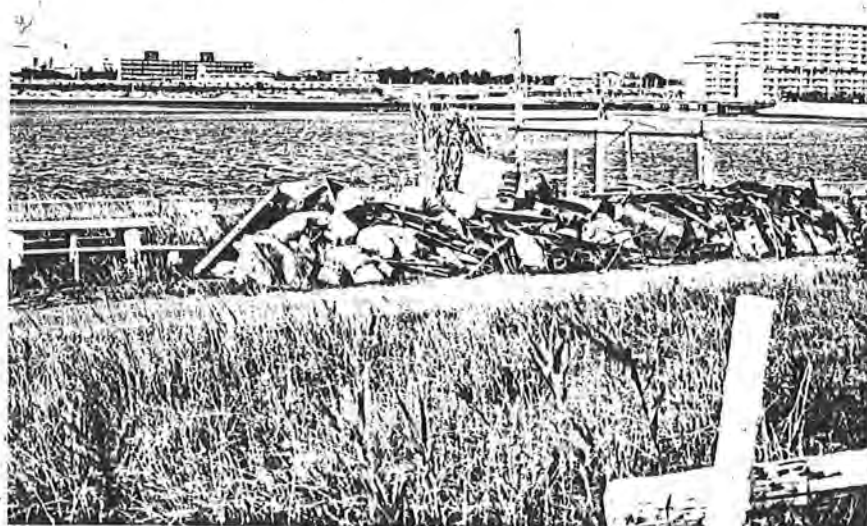
「一見して多いと思うでしょうが、全体から見れば大減額してゐるんです。昔はあちこちの干潟や池に懐んでいた鳥が懐むところがないのでここに集まってきたのです。」

谷津干潟の
「ボランティア」
それは、有志から成るもの
である。すなわち、自分たち
の住んでゐる所を少しでも
残したい、谷津干潟を
残したい、守りたい、その為
に何かの事を自分でできる
とせたいという人ならば、
どなたでも参加・協力して
いただくというのが目的である。

①、鳥を見たい人は見る。
②、土人小屋を作ったり、修理
したい人はそのようにやる。
③、干潟の環境美化したい人は、そ
れを。
④、カニ・魚・貝、シー
アールやベンチの修理やペンキぬ
り。
⑤、干潟でごはんを食べた
り、散歩したい人。ETC。
要するに、誰でも、干潟に
入って多くの人に来て下されば
それでいいのである。
何故ならば、谷津干潟は、皆
んなの力で守るそのなのです。

谷津干潟は「バロメーター」

谷津干潟「ボランティア」
作業によって、干潟のゴミ
が徐々に引き上げられてい
る。(谷津干潟クリーン作戦



もちろん、習志野
市のである。現時点
においては、まず失
格だ。対策、すなわ
ち、谷津干潟に対す
る市当局の姿勢は、
ひと言で言えば、自
治体として、無責任
であると考えざる
を得ない。
下水については、
これはとくく自治
体が、各自の責任に
おいてやるべきもの
今の常識では通るまい。

へ今は船取線の下に、フックレ堤防がある。のびくとエビがはね、顔や肩に痛かった頃……

ふかんど

第31号

1981年
9月1日

谷津干潟愛護研究会
市川市本北方二丁目三五〇六
〒272 電話0476-1-1666八
文責 森田三郎

2000年 読誌

PRINTED IN
ふかんど

ふかんど 30号を越えて

「森田さん、どんな小さななどのでいい、あなたはあなたなりの、自分の会報みたいなのをのぞき作りなさい。野鳥の会や干潟を守る会の会報を頼っちゃだめだよ、あなたにはそれだけの力が有るよ」。

それがキッカケで作った。オ一号は、昨年六月。奥を言うのと、私は、それまで編集の経験と、知識を全くなかつた。

たのである。会報らしきものを作るにしても、その為、どのような種類の文具品を使用したりよいか、本当にまるで見当がつかない。だから、町の、私がよく原稿用紙を買っていた文具店のオヤジさんに、事の次第を説明して、相談（フフ、ヒトフ、又ヒトフというぐあいに教えろとらった。わからぬ事困った時には、その都度聞いたのである。

「ウエダ」という文具店だ。

た。面倒がらずに、よく話を聞いてくれ、そして手とり足をとる如く、親切に教えてくれた。時々、タタで品をくれたり、サービスしてくれたり、七十円どころ、中古のコピー機もくれた。コピー機は使いきれなくて返さしてもらった。

オヤジさんは、私のことを、新聞やテレビで知っていたとの事。

「ふかんど」という名前前は、読了ジャーナリストが付けてくれた。二一三号で息が切れつつぶれてしまっただろう、とその人は後で言った。

たどくしく、不細工に作り始めていた頃から、現在に至るまで、終始変わらずこの私を励ましてくれた人がいること、私はうれしく思っている。その人は、テレビ関係の人である。

奥に、「ふかんど」は、自然保護関係の人でなく、全くどうでもよい人々のおかげで、ここまで来たのである。

楽園の子供達

干潟の子供達

絵と文 森田三郎

(第9話)



それは、広い干潟のまん中であつた。そこにいと、自然と大きな声をハリ上げたり、思い切つて駆け出したり、飛びはねたりしたくなつてしまふのであつた。とても、ジツとなんかしていられたかつた。そう、動物的になつてしまふのだ。

サンクと照りつける真夏の太陽のもと、オチンチンを丸出しにして、「キャッ」「ニョウ」と笑つと、陽焼けた子供たちの目と歯だけが白かつた。

そこで僕たちはやったのだ、「土人」や「ターサン」ごっこを。体じゅう、干潟の砂をドロドロに塗りまくつた。手も足もお腹も、お尻や顔までベトベトとくっつけて、身も心も、ほんもの土人になつたつもりでいた。そしてそのまま干潟の上を力一杯駆けまわつた。潮だまりの中を、背よりも高くしぶきをハネ上げて突っ走ると、砂がとけるように流れ落ちた。それがとつてもうれしくて、愉快でならなかつた。深い所へ、飛び込みながらフツ倒れた時なんか、もう、「いっぺんにキレイサッパリ」。

それを見届けると、「ニッ」とするが、「どおだあつ」と言つて笑いこけていた。

でも、それよりも、海草のほ

腰ぐらゐの深さの所など、あんまりたまっていたので、泳げなかつたのは勿論、足や腹、腰に藻がつつかえてしまつて歩けなかつた。ザブンと水にもぐつて水面に体を出すと、藻がいつぱいからみついて、顔もわからなかつたほどだ。そんな時、僕たちは、「オバケだどおー」とか、「オレだあれだあー」とか、なんて言い合ひ、ケラケラ笑ひこけて、カワウソの如くかきめくりはしやぎまわつていた。

海草を、腰や首、肩に出来るだけいっぱいまとわり付け、片手にフジツボや貝がビツシリ付着した流れ竹を持つ。それが土人のヤリだつた。すつかり土人やターサンになつた僕たちは、踊り、とび跳ね、走り、体をくねらしては、叫び合つたのだ。

「キャウホーキャウホー」
「土人だあー」
「アオオオーアオオオー」
「おどれええー」
なんてぐあひ。

そんな時、赤銅色にやけた子供たちの肌は、潮に塗れ、ピカピカ光つていた。藻から飛び散る水滴も、夏の陽でキラキラと輝いた。オチンチンも、潮風の中でゆれて

うがよっぽど面白かつた。谷津干潟には、その頃、藻場といて海草がシヤンゲルのように茂っている所があつた。波打ちぎわなど、藻がウズ高く積まれ、歩くどファンワカ〜して

(干潟の想ひ出の中から)

「月刊・ならしの」ヨリ

ふかんど

第32号

1981年
9月2日

谷津干潟愛護研究会

〒272 市川市本北方二丁目三五〇六
電話 0476-31-1666
文責 森田三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど



千葉県船橋市の谷津干潟では知らぬものがない熱血漢が森田三郎さん 生まれ育った海岸が荒れ果て そこにいる生きものが追われて行くのを守るため「干潟を守る会」を作って保護運動に立ち上がった しかし自分の体を張った実践以外に手段はないと悟ると1人で黙々と干潟の清掃をするようになった 拾い集めた流木で観察用のテーブルとベンチを210組も作り上げ 松の苗木200本を植えた 森田さんの運動は すべて無報酬 費用はすべて新聞販売店勤務の とぼしい財布から出る

1979.5.29

「サンデー毎日」

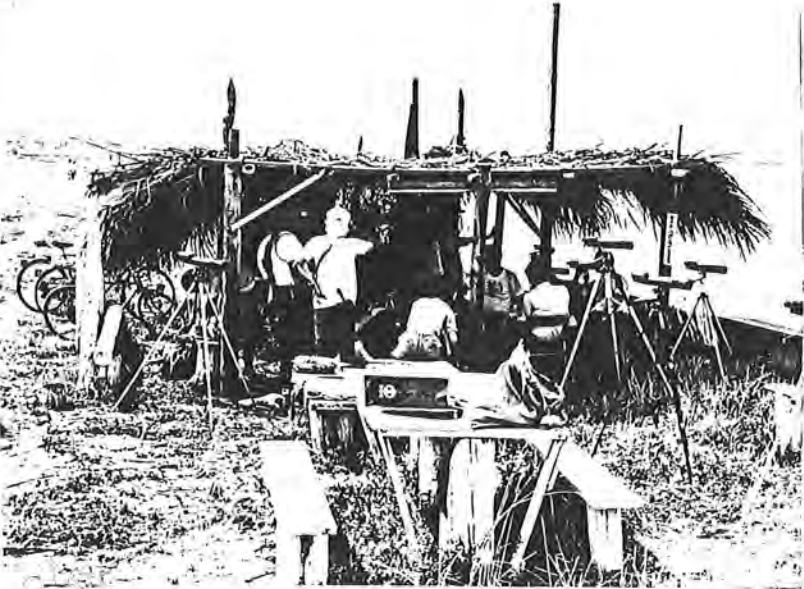
東 康 生 氏

写す

於・谷津干潟

この頃、愛護研究会はたった一人だけ。私だ。この日はちょうど観察会が行なわれつつあった。そんな中で、こんな姿を撮っていたのは、ヤマト、スコシプヤトシカチ、ペンキヤロープを持つワロチョローテのりのは、会長さんの私だけだ。
一人行き、一人でやり、一人でご飯をたべ、一人で帰りました。車のボテイに、「千葉の干潟を守る会」と書ってあります。どうしようもなくって、愛護研究会をつくって一人立ちした事に対する気配りなのですか。孤援でした。

谷津干潟名物土人小屋



役に立っています。

自然味、涼味まさに満足です。下も、利用する人の大部分は、土人小屋のみならず、テーブルとベンチと、誰が作ったのかわかりません。聞かされた限りでは、県が市が作ったかと思っております。いろいろのことです。

私達は信じています。ホ

ランテアのボランティアたるゆえんはよくにあるものだといふことを。

会員の皆さん、ですわ、「なんだあ、オレ達が汗かいて作ったって、他の見も知らないうちから占領さかちやって、ちつとよ使えぬえいやねえかあ」なんて言わたりで下さい。もちろん、私は十分わかりすぎた程わかっております。

健やかにかに玄月、松の木よ！

汝は知らんや

その昔

白帆をなびく

大いなる

遠浅うみの彼より

吹く潮風の

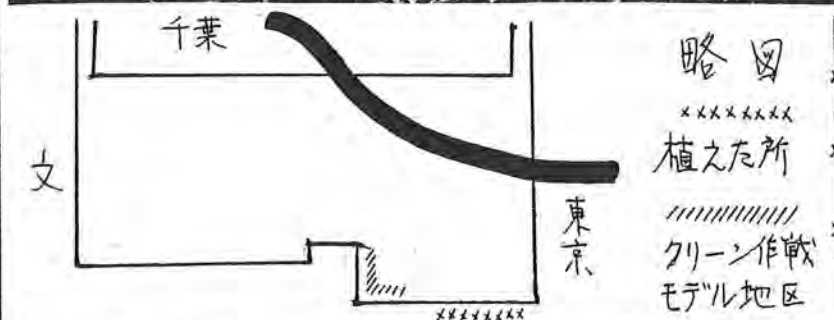
ありたるを

(千鶴日記録より)

五十二年、五月に植えた。その後、毎年夏になると、必ずそこに行くのである。念りに。

今年も行った。「どれくらい大きく育ったのか、なあー、と、そんな思いで。

夏くさの、草いぎれの中で、緑をみずみずしく育っていた。いろいろと災難にあつて、百名のうち主残者四十五名である。来年の夏まで、松と私達の圃には、どんなことがあるのだろうか！



公害対策ニューズ 51.11.20

八葛南地区埋立公害対策委員会

谷津干潟に自然が帰って来た

森田三郎

谷津干潟愛護研究会
谷津干潟自然教育園長

谷津干潟にハゼが、ボラが、そしてセイゴ達が帰って来ました。それも非常に沢山。辺り一面に群を成して、水音を立てて泳ぎまわっています。天気の良い日の休日に袖ヶ浦団地側の方へ行ってみると、水路や干潟の中へ沢山の人が並んで釣り糸をたれている光景がみられるようになりました。浅い水際ではムツゴロウにそっくりのトビハゼが水の上をピョンピョンはねていたり、干潟の砂の上をチョロチョロとはって行くのは、とてもかわいらしくユーモラスです。まさかと思っていたシャコさえも帰って来て、谷津干潟の砂の中で寝みつくようになりました。ぼくがゴカイを取っていたら、干潟の中からノコノコ出て来たのです。もうこれで三匹目です。名前はスナモグリと言って、エビガニと似ています。きっと親が干潟の中へ卵を産んでいったのでしょう。カニもものすごく増えて、見渡す限りカニだらけです。大きいのはヤマトオサガという名前で、手当たり次第いくらでもつかまえます。昔、植木屋さんが天びん棒で大きなかごをかついで来て、山程取ってギョウギウウかごの中へ押し込みこやしにしてみました。ヤマトオサガよりもずっと体は小さいが、かわいらしいちっちゃなハサミを上下に振り動かしして体操する、チゴガニと呼ばえる大群も増えて来ました。ぼくが少年の頃はチゴガニのことを、「体操ガニ」と呼んでいたのです。昔は広い干潟のあちこちで彼らの巨大なマスゲームが演じられていました。しかし、全てが埋められてしまった今では、たった一つ残された谷津干潟にしかその姿を見せなくなりました。私達の目で見ているヤマトオサガも体操ガニも、かろうじて生きのびた遠い昔の、かわいらしい子孫達なのです。この前、干潟の中で投網をしてる人がいました。そこいらじゅうにビシャビシャと音を立てて泳ぐ魚の群の中へ網を打つと、40〜50匹のボラ、セイゴ、イナ、ハゼが入っていた。ハゼは湧くようにいて、ズボンとシャツをまくって潮の中へ入ってゆくと手づかみでハゼが取れるし、足の裏で踏んだり、その下にもぐって来てしまいう程です。釣りをするのがばかみたいだ。ゴカイなど、一回手で掘ると10匹位取れるし、シャベルで掘ったらなんと50匹も取れるのです。

昨年、習志野のプロジェクトチームの結論では、谷津干潟はこれ以上良くならないと言いました。しかし、現在のところではその反対となつて、カニも魚もゴカイも昨年よりもずっと増えてしまいました。水路の工事をした分だけ海水の流れが良くなり、海の生きもの達が谷津干潟の中へ入って来てしまったのです。工事中でまだ水がにごっているにもかかわらず、もし、京葉港が完成して、若松団地の前の干潟が消え、谷津干潟が埋められてしまったら、私達は勿論、京葉、葛南地区の何千万という少年達は、どこで魚やカニ、そして鳥達と身近に接することが出来るのだろうか……。たとえ、昔とは比べものにならない小さな干潟でも、ここに書いたように必死になつて生きようとしている谷津干潟を自然教育園とし、次の世代を担う子供達のために残すのが私達大人の、かつての広大なそして青く豊かだった海を経験した者の務めではないだろうか。

森田さんは少年時代、いま、若松団地が建っている干潟で遊んで育ちました。その想出をすばらしい絵に描き、テレビや新聞等で何回も取り上げられました。毎日のようにバイクで埋立地の自然パトロールをして、真黒に陽にやけています。何が何でも谷津干潟を守りたいと力一杯活躍しています。

※※※※※

何故、観察舎だけを目の伏にするのですか？

● 森田は、今はただただ 忍の一字でござります。 ●

谷津干潟野鳥観察舎を自主撤去

保護団体

県の意向受け入れ 論議呼ぶ楽園保存

習志野市の谷津干潟前に愛鳥家のカンパで建設された「野鳥観察舎」がこのほど、県企業庁が「不法建築物」としたため、自然保護団体が自主撤去した。県企業庁が同団体との交渉の中で白紙の状態を話し合いたいとの意向を示したため、これを受け入れた形。来月上旬にも両者の話し合いが再開されるが、「野鳥の楽園」保存をめぐるかなりの論議を呼び起すような気配だ。

来月上旬 両者話し合い

この野鳥観察舎はさる六月下旬、同市谷津二地先の県企業庁用地に「谷津干潟野鳥観察舎」(森田 二郎代表)など自然保護団体が使用許可を得ないまま建設した。このため、同庁が七月十日付で不法建築物なので撤去するよう通告していた。

同庁は東京湾部に現されたたつのもので、渡り鳥の好むの休耕地となっている。広さ約四十五坪には野鳥のエサとなる魚介類のカニなどが豊富で、春と秋の渡り鳥シーズンにはカモ、シギ類を中心に約百五十種類、八千羽前後の野鳥観察舎が撤去された跡地(右)と自然保護団体の自主撤去の看板(左)。

このため、自然保護団体では同干潟の前面緑地に野鳥観察用のベンチなどを設ける一方、干潟の「クリーン作戦」を展開するなど、開設鳥獣保護区の指定に向けて積極的な保護運動を行ってきた。

問題となった野鳥観察舎もその一つで、昨年十一月から募金活動を始め、今年六月中旬に約四十五万坪のカンパでプレハブ平屋建て(トイレ付き)を完成させた。そして、自然保護五団体が県企業庁に観察舎の存続について要請書を提出していたが、同庁は「あくまでも不法建築物、これを撤去しない限り話し合いには応じられない」としたため、今月中旬に自主撤去した。

谷津干潟愛護研究会だけは、企業庁と、全面对決、という事態をやむなしとなったであろう。しかし、これを契機として、自然保護団体が結束し、干潟保護の機運が高まりました。

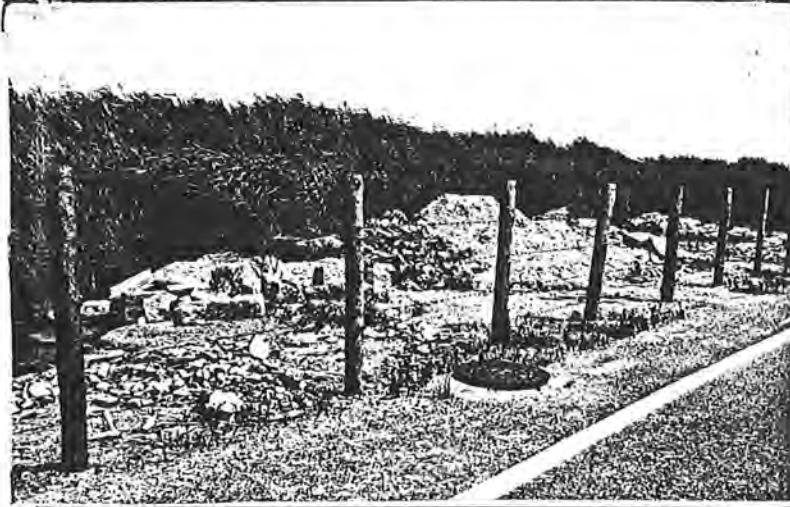
それでは当会は、あえて一歩引いた立場を決めました。企業庁は、不法法抛・侵奪の一臈ばりで、観察舎の目的・利便・意義などに付いては、全くとりあつてもうえ王せんでした。闘いはいつでとできますが、今はただ忍耐。

埋立地を不法占拠するゴミの山

長谷川業務課長は言いました、「私産企業

業方は、県民の皆さんの財産である埋立地

をあずかる者として、自分の家の庭以上に大切にしているのです。と。ならば、保護区指定の後には、国が県に寄付し、つなぎとしての観察舎は何故全くダメなのか。



ふかんど信条... 私達は、企業庁に愛されるよう及干潟保護をしております。

ふかんど

第34号

1981年 9月3日

谷津干潟愛護研究会
 市川市本北方二丁目三五ノ六
 〒272 電話0476-311-166六八
 支 貴 森田 三郎

講誌年2000

PRINTED IN
ふかんど

お振込は千葉銀行012-54253
谷津干潟愛護研究会

(婦人公論一九七七・九 北原龍三氏による)



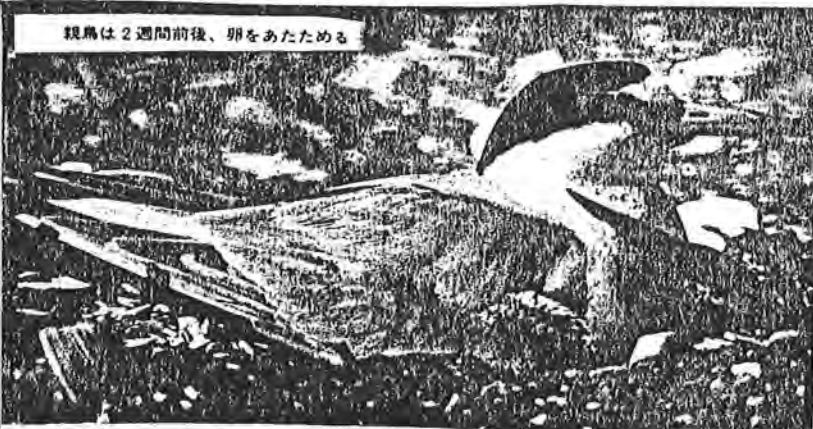
生れて2、3日でヒナは歩き始める。

工業用埋立地に生きのびる 東京湾のコアシサシ

東京内湾(千葉県富津市と神奈川県鎌倉市をむすんだ北原)の沿岸一七〇キロはほとんど埋立地。東京湾の一番奥まった所の埋立地、富津・浦安・葛西などは湾内水鳥たちの最後の繁殖場所といわれている。しかし、ここも東京湾の埋立地、埋立道路、工場、倉庫の建設工事など鳥たちをとりまく環境は悪化の一途をたどっている。しかしコアシサシなどの鳥たちは結局もう他に行く所となくここに巣を作りヒナを育てている。中にはフルドージャーのキヤタビラの跡をそのまま巣にしているものさえいる。このコアシサシはもともと水鳥の一種で湖沼に生息するが、近年は水鳥の減少に伴って湖沼に生息する水鳥の減少に伴って、動物の子供は何でも可愛らしいものが特に親鳥におおわられた鳥のヒナは繁殖地。コアシサシのヒナは鶏のヒヨコをもっと小さくして色を塗りかえたような可憐さである。水鳥の繁殖状況を調べて鳥たちを守る手助けにしたいと今年で三年間一人一人調査をしている青年がいる。この森田青年は東京湾の埋立地のうち千葉県の京葉臨海用地と浦安、東京都の葛西など二五〇〇ヘクタールの地を雨の日も風の日も強い真夏の炎天下も一人で歩き続け調査し続けている。東京湾が太平洋の入り口とつととしてきたのは千二百万年という気の遠くなるような昔であるという。以来、現在ほど汚され破壊されたことは一度もなかった。われわれの時代にこの海を殺していいものだろうか。



ここももうすぐ道路が走り倉庫が立ち並ぶ



親鳥は2週間前後、卵をあたためる

長くて激しい、精力的な繁殖調査。年を追って、私の胸につのるのは、こわら追々水ゆく渡り鳥に対する、バードウォッチャーの、そのモラルの低下ぶりであった。それと、渡り鳥の数が少なくなればなる程、鳥に対する思いやりのない、鳥の立場に立たない態度だった。



今日も森田さんの調査がつづく

ひなは一度に3羽生れるのが普通

新聞記事から とくに、自然保護関係 者に読んでもらいたい。

お互いを大切に認めあうことが飛び切りの愉(たの)しみを感じる喜びが持続すれば、なんと子ども達は腹の底からの笑い声をほろほらしらせるのか。八月十一日の本欄に書いたアメリカのアボルト夫妻(妻、六人と障がい児十三人を育てた)の講演と映画の会が、大阪で八月二十日、神戸で二十四日あった。

新しい育児観 視点

伊藤 友宣
(カウンセラー)

私は大阪の会に出かけたが、アボルト夫妻が、いわゆる福祉関係者の独特の屈折を全く感じさせない素直で、そのまま舞台人にひけをとらない伸びやかな美しさに輝いているのが、すばらしい。感性と知性のバランスのとれた自己表現の習慣が、徹底的に生活化されている。私から、カメラの前でも講演台でも普段のまま振る舞うことが出来、それがそのまま他人への意思表示に買われている。わが子一人の育児にでも首をあげる親が少なくないのに、十九人の子を育てる。しかも重度の障がいの子を。超人だ。

へ海や川、野原や沼、ヤード虫や魚やアソビにのびのびの経験と知識を伝え、育つる子供社会が

ふかんど

第35号

1981年
9月4日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話 0476-31-1666
文責 木村 田三郎

講読年 2000

PRINTED IN
ふかんど

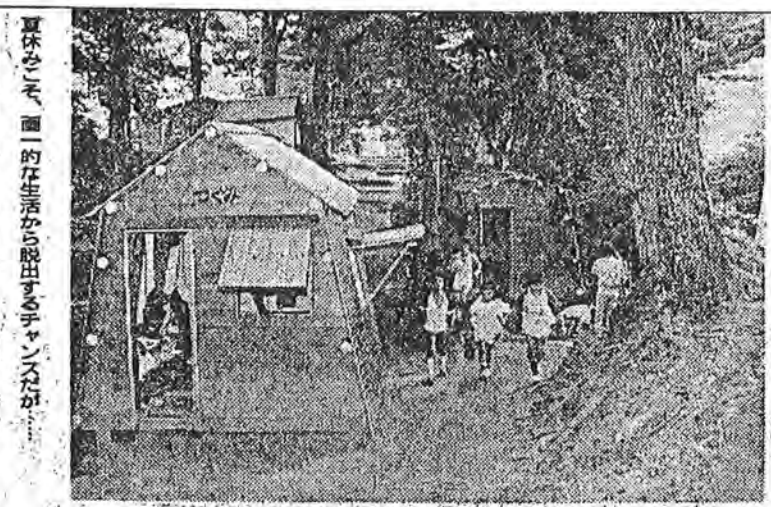
「お母さん、お父さん、お兄さん、お姉さん、お友達、みんな、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」

「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」

家庭も子供も

皆と違つと怖くなる

親が跳ばねば子は跳べぬ



「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」



「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」

(1980.7.28 日本経済)



(草原の中の秘密のかくれ家)

「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」



「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」
「おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね、おもしろいね。」

御願います

く---何回とくどいようですが。

住民がクリーン作戦

谷津干潟 保護区指定迫るテコへ

野鳥の楽園「谷津干潟」(習志野市谷津)へのゴミや産業廃棄物の不法投棄が最近、目立っているが、「せつかくの楽園が汚されるのはしのびない」干潟の周辺に暮らす住民たちが協力して近く一斉清掃作戦を展開する。住民たちはこの運動をテコに、環境庁、県、地元習志野市など干潟の国設鳥獣保護区への早期指定と維持、管理体制の確立を迫ってゆく考えだ。

クリーン作戦を打ち出したのは谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)、日本野鳥の会千葉支部(代表・石川敏雄千葉大教授)、千葉の干潟を守る会(大浜清代表)で、干潟の保存を強く願っている地域住民も多数加わっている。第一回の清掃はもうとも汚されている谷津干潟付近で二十三日午後二時から実施することになった。国指定のため埋め立てを免れた同地区は、谷津干潟愛護研究会の森田会長などの清掃作業で、年々きれいになりつつある。また、西側水路が開放されたことも

手伝って干潟内部の環境もよくなると、ハゼなどの魚類が増えている。当初、冷たかった県企業庁も、拾い集めたゴミ類を搬出してくれるなど協力姿勢をみせるようになった。しかし、相変わらず焼くなどの不法投棄が、生活排水用品などの不法投棄だ。

このため、各グループは再三、地元の習志野市など干潟地を清掃してきた。ゴミを捨てているのが同市民とみられたからだった。この

「野鳥の安全と自然を守る」を合言葉に谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)は、谷津干潟のクリーン作戦を呼びかけている。谷津干潟には数千羽の野鳥が飛来し、東京湾に残された野鳥の最後の楽園といわれる。しか

回りのクリーン作戦終了後には、住民代表をまじえた同干潟美化委員会を組織して、さらに世論を盛り上げてゆこうという。谷津干潟愛護研究会の森田三郎会長の話、地元住民の理解を得て、干潟の清掃美化運動を根強いものにした。これまで、市側の清掃活動を妨がりはかりしてきたが、それだけではわれわれの意に反することなので、市側へも協力を呼びかける。

クリーン作戦
毎月1・3
日・火曜日です。
日・埋立地かわ
火・三丁目前
(谷津)

習志野市は、市民が不法投棄して下さることをよく知っております。にせがかわり、捨てられる国の方が悪いのだと、そう言っております。

(千葉ライフ No.10)

「野鳥の安全と自然を守る」を合言葉に谷津干潟愛護研究会(森田三郎会長)は、谷津干潟のクリーン作戦を呼びかけている。谷津干潟には数千羽の野鳥が飛来し、東京湾に残された野鳥の最後の楽園といわれる。しか

谷津干潟の自然を守る
守ろう
活動に力を
清掃活動

し、干潟をゴミ捨て場と間違える心ない人がいることも事実。干潟は年々汚され、シギやチドリ、サギ、カモなど野鳥の生息環境は著しく破壊されている。そこで同研究会では毎月第百曜と第二次曜の午前十時半から正

▼干潟でゼニガメがとれました。
最近、たつ続けに又回見つかっております。最初は私。次は干潟を自由研究のテーマにしている中学生が。
昔は、うみの岸辺のヨシ野ジメノクーした水たまりの中でキブカミでとれたほどでした。



群がる園児たち...

谷津干潟には、幼稚園児がよく来る。若い女の先生に引率されて、ガヤク、キャア〜と笑い、しゃべりながら。

この日、谷津干潟クリーン作戦(六月)の時も来た。堤防の下の干潟では私たちが、汗だくの泥だらけになつて清掃をしていた。

私の車をめずうーそうにトリカこんだり、下をのぞきこんだりしていた。「おいさあーん、何してんのぉー、魚とってんのぉー」と、声をかける。でも私は、「うーん、ゴミ拾いだあ」とは、すぐ言えるかった。

船橋・習志野の市街地は勿論、とくに埋立地において、都市化一歩先が危めらわっている。埋立地は至る所、鉄条網が張りめぐされ、殆んど海に出られぬ。しかし、人々は、何回、どの様に立入禁止にしても、そこを破り、くぐり抜けて行く。「海」が欲しいのだ。



ふかんどー見わたす限りに、体操がニカワセリに体操して、その音が聞えた頃

ふかんど

第36号

1981年
9月4日

谷津干潟愛護研究会
〒272 市川市本北方二丁目三五番六
電話0476-311666
支 責 森 田 三 郎

講読年 2000

PRINTED IN
ふかんど

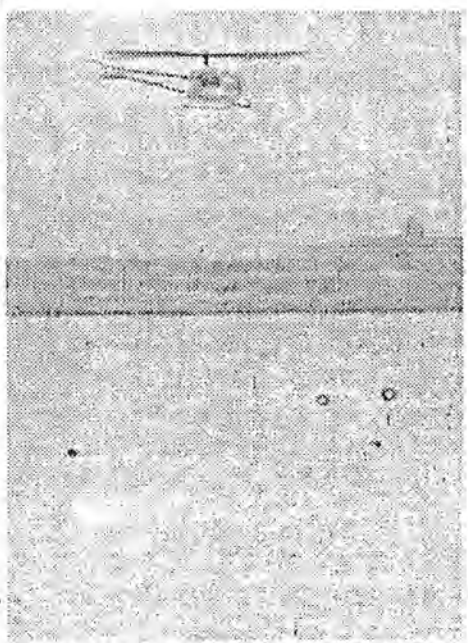
野鳥の楽園で装置テスト

谷津
干潟

農薬散布前に
日本ヘリ社

保護団体が抗議へ

会社側「水なので害はない」



「谷津干潟」上空で農薬散布装置のテストをするヘリコプター = 6月21日写す

東京湾奥部に残された最後の野鳥の楽園、「谷津干潟」に習志野市谷津IIの上で、ヘリコプター会社が農薬散布前の装置テストをしていたことがわかった。干潟の保存運動を続けている「千葉の海を守る会」(大浜代表)、「谷津干潟愛護研究会」などの自然保護団体から強い怒りの声が上がっている。会社側は「テストには水を使っているの野鳥には害はない」としているが、大浜代表は「タンクに残っている農薬が水に漏れ落ちるおそれもあるし、騒音も鳥を驚かすおそれがある」と、ちび鳥の被害を訴えている。同社に対して抗議行動をする

予定だ。農薬散布前の装置テストをしてきたのは日本ヘリコプター会社(本社・東京)。京成系列の企業で、京成谷津遊園のヘリポートを基地に遊覧飛行や農薬散布などの事業をしている。同社の説明によると、農薬散布の時期は三月、六月、八月の3回が多いが、いつもヘリコプターに散布装置を取り付けているわけではない。機体に装置を取り付けた際には、必ず完動するかどうか試験する。テスト散布に使うのは、水なので全く害はないと強調している。以前は他の地域でテストをしていたが、適当な場所がなかったため、数年前から谷津干潟でもやっているという。

「守る会」のメンバーがこの散布テストに反対したのは、先月二十一日の日曜日に行われた野鳥観察会の時で、騒音をあげて干潟の上を低空飛行を繰り返すのは、大

騒音となった。会場のそばに散布液の霧が風に乗り、崖辺にも飛んで来て、まぶしさに気がたつこともあった、という。

「一九八一
七・二
朝日」

現地の現状を見れば、とはヤヘリコプターの飛行そのものが問題である。学校、宅地の増加、道路など、市民の生活環境から考えれば、すでに中止していただかしくない。

前面がまだ海の頃とは、いわゆる社会情勢も違っているのである。そのことは、周辺の都市計画がだいぶ前に明らかになってきた以上、その具体的な対策がとれていないという事は、日本ヘリと京成の怠慢と考えられて

とやむをえないのでよ。多数の人間の頭上を、ドラムカンなど、訓練の為に飛行するようでは認識が不足しているのではあるまいか。

会計報告 昭和55.6.1~56.5月末日

収入	カンパ 51000円	会費 30050円	合計 81050円
支出	会報(冷切手) 47000円	封筒 1500円	
	コピー 5000円	印刷 30000円	
	一輪車(2) 17000円	土のう袋 27000円	
	ベニヤ(看板用) 17000円		
	おつかい物(クリーン作戦に無料奉仕してくれたい建設会社へ) 4000円		
	ペンキとそれに使うもの 22100円		
	文具品 5000円	クリーン作戦案内 5000円	
	その他、ロープ・手袋・クギ・カスガイ・ゴミ袋・ひも・くまき・一輪車のタイヤスペア・各種金具		
	各種作業道具	合計約 40000円	
	支出合計	234100円	
	差し引き	153050円の赤字	

尚、森田個人に関するものは全て計算外です。
以上

へんかんど、千潟の上を、竹馬で歩いたり、戦車か走って行った頃もありました。

ふかんど

第37号

1981年
9月6日

谷津千潟愛護研究会
〒272 市川市北方二丁目三五五六
電話 0476-31-1666
支 主 頁 森田 三郎

講読年2000

PRINTED IN
ふかんど

お時間拝借



谷津千潟愛護研究会
森田三郎さん

谷津千潟は東京湾最後の野鳥の楽園といわれています。その千潟を守るべく一生懸命になつていらっしゃる方々がいます。「谷津千潟愛護研究会」の森田三郎さんもその一人。幼いころ谷津で育つた森田さんは当時の楽しい思い出を胸に、いまの子どもたちになんとか谷津千潟を残してあげたいというので

森田さんはなにか強烈な動機があつて千潟の千潟を守る会に入つたようにお見受けするんですが……
森田 そうなんです。あれは、いまから四年前になるんですが、ある新聞に「谷津千潟」の記事が載つていたんです。その写真の中に「クイ」が二、三本立っているのが、非常に印象的に目に入つたのです。「あれは、もしかしたら

そのうち、そのうちだよ、昔、千潟で遊んだ数々の思い出を童話にして語り伝えたいとね。
森田 それはいいことです。森田さん自身は読書は好きですか。
森田 大好き。現在蔵書なら三万五千冊くらいあるかな？
森田 どのような蔵書がありますか。
森田 心理学、哲学、伝記がほとんどだね。
森田 昔、少しは読んだけどまだるっこしくてね。この運動に入る前は、背広のポケットにマン札ぶち込んで、朝九時ごろ家を出てマップを頼りに古書店めぐりが日課だったよ。
森田 朝刊を配り終わって夕刊までの時間にですか。
森田 もちろんそうさ。楽しかったね。

いまは千潟のことで夢中になつて居る様子ですが、ご家族の方は森田さんのこういう運動についてなにかおっしゃいませんか。
森田 オレいま三十三歳で独身なんだよ。そのせいもあるんだろけど、いつまでもお上(かみ)にたてついてないで、早く嫁さんを捜すことも考えろとね。そのうちなんとかなるだろうと思つてゐるんだけど……(笑い)。
なにか一つの目的をとげようと行動すれば、いろいろ困難な

つしやつていますね。
森田 オレはむずかしくものを考えたり、やつたりするのは嫌いだから……。子どもたちに千潟に集まってくる幾千のシギやチドリを視て欲しいし、その鳥たちが周りの草むらに卵を産むことも知つて欲しいし、この千潟の中でいろいろ遊びができることも……。本当は、投網をかけて魚を獲るところもやつてみせてやりたいし。



森田さんは「守る会」の活動としてはどんなことをやつてゐるわけですか。
森田 鳥獣保護区指定地域として残してもらへるよう、環境庁、千葉県、習志野市などに陳情や相談に行つたり、マスコミ関係に谷津千潟のPRにも行くと、千潟の掃除もやれば渡り鳥の調査もやるし……。要するになんでも屋です。

陳情の結果はどうなんですか。
森田 環境庁と千葉県は残してくれと約束してくれてゐるんですが、肝心の習志野市がもう一つハッキリしないんですよ。
現在、谷津千潟にはどのくらいの鳥がゐるのですか。
森田 種類にして25、30種くらいかな？ 数では5千、1万くらいいてゐると思う。シギ、チドリ、カモ、カモメ、サギなど東京湾では谷津と木更津が渡り鳥のゴソリンスランドになつてゐるわけ。谷津千潟にはカニ、ゴカイ、シオフキ、アサリ、バカ貝、マテ貝、シヤコなんかがゐるからね。前にもちよつとつたけど、オレは本当は千潟の中に入つて、子どもたちとかニヤ貝などつて遊ばせてやりたいし、鳥の卵がある場所も教えてやりたいんだ。自然を守りながら、その環境の中で子どもたちを遊ばせてやりたいというのがオレの理想なわけ。いまそれができないから「谷津千潟自然教育園」を作る運動を進めてゐるんだだけ……。その一大パノラマもでき上がつてゐるんです。



森田さんが流木で作った千潟のベンチ

お話をうかがつてゐるときに「自然教育園」に近い将来できると素晴らしいですね。
森田 できるように応援して下さいよ。(笑い)。

——ところで森田さんのお仕事はなんですか。
森田 新聞配達員です。オレんちは貧乏だったから、新聞配達をしながら学校へ行つたんです。勉強が好きでね。中学を卒業して日立製作所に入れば高校の勉強をさせてくれるというので、ここで三年ばかり学んだけど、どうも足の足りなくて十八歳のとき船橋高校の定時制に編入し、大学は東洋大学の英文科を出たんだ。だから高校生のときからズーツといまにいたるまで新聞配達だけしかしてないよ。
——見たところ森田さんは英文科じゃなくて土木科の感じですね(笑い)。
森田 いや、オレは「千潟の掃除人」でいいんだよ。でもいま一つ考えていることがあるんです。

谷津千潟の秋

八月、目もくらむような日射しの中、千潟には早くも秋が吹寄せ、マ、イ、ア、と北風が吹く。秋の風が吹く。シギやチドリが、千潟の空を飛ぶ。谷津千潟へ集まってきた。遠く、インドネシアやフィリピンから来た。この千潟の豊饒なエサを求めて、黒い翼を白く、冬羽に着替えていくのです。八月の末には北風からカモもやってくる。千潟には、八月後半から九月の千潟は、いろいろな鳥の集まり、ハイ、ハイ、と鳴く。千潟の空は、鳥の羽が舞う。千潟の空は、鳥の羽が舞う。

谷津千潟ボランティアグループ

——とにかく、千潟の為に何かをやろうという集まり。

生かげよかし

千潟のこゝとばを

季子節(ご)と

その時々、谷津千潟のようす、ヤーア説

明などを書りていき

いと思ひました。

とりあえず、春夏秋冬

冬ごとに書き変えてい

くことにします。

近くにすむ田地の方かた

くさん来るのです。

へふかんどー幼な心に、潮の満ち引きは、沖の彼方に大男の怪物がいて、バケツで潮をすくって
りたと思っていた頃……

ふかんど

第38号

1981年
9月7日

谷津干潟愛護研究会

千代田市本北方二丁目三番五番六番
電話 0476-31-1666
文責 木村 田三郎

2000年読講

PRINTED IN
ふかんど

クリーン作戦以前の頃

この所は今、「谷津干潟クリーン作戦モデル地区」になっていて、水辺の草がウツクツと生い茂り、カニが体操し、無数のゴカイがピチピチと音をたてている。潮と共に魚の大群が岸近くまでやって来て、そこいらじゅうで水音を上げ、小鳥が砂あびをし、オモガチづくりの干潟で休み、シギ・チドリの類が、人家の向成かまでエサをついばみに来るので、声が大きく生々しく聞こえる。

ひとりだった。脚に金具が入っていた。つまづいた時など、金具がズレたのではなかると心配のあまり、何度も手を当ってネジの位置を確かめた。世に、谷津干潟クリーン作戦という名が表われたのは、それから約一年四ヶ月後の事。

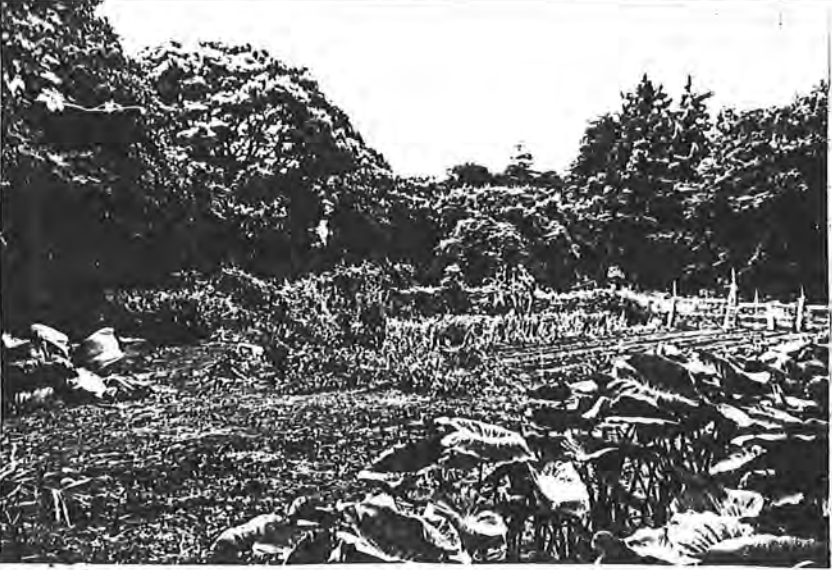


おふくろの曲辰場

おふくろはここで、よく
野良仕事をしていた。父と
時々いっしょにやっていた
。土が好きなのだ。今年と
二度ばかりハチに刺されて
、手と目ははういていた。
私を手伝わさず。水汲み
だ。「三郎、お前、畑に水
汲んでくんねえかあ」と。
めんどくさそうな顔をす
ると、「お前はよお、誰に
も頼まれぬのに、いっしょ

ちゅう干潟に行っちゃあ、
タタでまっ黒なうてそういし
てるじゃねえかあ。誰か、有
難うなんてお礼すんかあ？、
しゅべえ、でと母ちゃんはよ
お、お前に頼んでんだとお、
親の私が、子供のお前に頭あ
下げたんだとおしと、そう言
うのである。

作をつは、ネギ・シヨウガ
・トマト・キュウリ・ダイコ
ン・ジャガイモなどである。



こんな自然をこわすのは、だれだ！
ゆるぎない！ この自然をいつまでも...

山本美

10月9日(月)晴 12:00~13:00
優雅に飛ぶ白い鳥。漂う水のさざめき。さわやかな風。
澄んだ空気。広い空間。
ここにすわっている自然に染つた人。向かいやそばに居る人。
流れていくのは。すがすがしい気持ちにたまりません。
いつまでも。いつまでも。この風景が保たれることを祈ります。
(自然は守っていかねばいけません。なくならないように。二度と取り戻すことがない)
ここへ足をのびる人は。まじめな心を取り戻して行くようです。
「たせなれば」ゴミを置いて行く人は少ないし。水に頼りない。ゴミを捨てない。ベンチが増え。小陰かでき。鳥や魚をこわす人が減る。感謝します。
干潟を守って下さる方に感謝します。
あの白い鳥はほんとうの名の鳥でしょうか？ 近くの学生風の人にたずねて見ると「太サキ」とのことでした。表示板が何かに肉腫で黒い鳥をたけていてから。教員も頂けたら。いこう楽しくたれようです。
今日ついでにリレーにたのしみようです。

ふかん。と 30号 究研行 ありまの。 (少々スピードが速すぎたように思いますが) 私を毎日「ふかん」の猫の ありまの。この言葉が大好き。今度はとくを染かき染かき12リリ。今昔色に変色して。観察室のあった 四角の草地、一日も早く。ふかん。と 姿を見せたくて。身を隠す。企業庁の役員様。不法。不法とあつた。アツカ。ゴミの山も不法に土地を埋め？ 12リリ。あつた。一日も早く強制撤去。なつた。なつた。持主をさかし。内容証明をあつた。なつた。なつた。皆様ががんばれ！

谷津干潟通信箱-みんなの声

(日経 1970.2.21)

20年目の真実

千葉県企業庁

千葉県企業庁は三十四年七月、知事部局に属する開発部と成。企業誘致に加え、港湾や工業用水の整備、さらに用地買収の川崎製鉄の千葉進出を契機として始まる工業地帯造成。この第一編部隊を務めたのが開発部だ。

▼毎日が手探り

「確か七、八人の陣容だったかな。土木部は各部署の調整が必要なので栗田知事(故人)に頼んで知事部局のひとりにしてもらったんです。三十四年から四年間、開発部長

(注) 千葉方式は財政再建団体に転換するまで財政に頼っていた千葉県がみ出した。土地を造成する際、土地を希望する企業に造成後の土地分譲を約束し、同時にその企業から土地代金の予約を約束させ、事業の進展に応じて分割納入してもらった。その後、民間デベロッパーを参加させ、民間の資金負担割合に応じて造成地を与える共同事業方式(出願方式と呼ぶ)も採用した。

開発の先兵 離合集散の歴史

すべてが重化学工業中心の工業用地。三十八年の八幡製鉄(現新日本製鉄)の君津進出、初の千葉方式(注参照)による埋め立て地五井・市原地区の完成(三十七年五月)と任事は軌道に乗るが、間もなく大きな変革にさらされることになる。

三十七年十月の知事選。民党公認で財界出身の加納久朗氏が、二期知事を務めた栗田知事を破り、県政に登場する。開発のスピードアップを掲げた加納知事はわずか三月余りで急逝(せい)するが、加納氏の遺志を引き継ぐ友納武氏(三十八年四月知事就任、前代議員)の手で同年六月大幅な機構改革が行われた。開発部を知事部局からはずし、公営企業組織として開発局に改組したのである。

▼自前でかせぐ

開発局は、七課六事務所で構成。人員は三百九十人という規模になる。工業用水事業も柱のひとつになり、陣容は拡大したが、知事部局からはずれたことが職員に動揺を与えたことにもなっていた。そこで友納知事は知事部局より下という見方をしないでくれと言ったことある。

独走批判今は昔

契機、やはり石油ショック

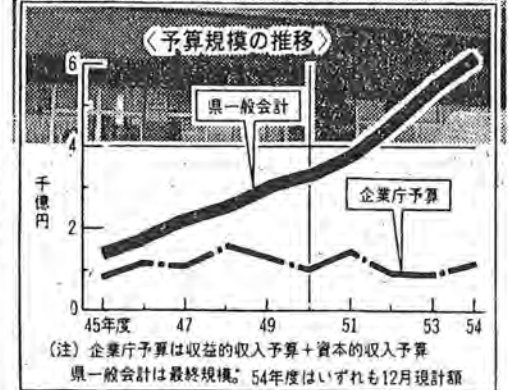
「三十九年に開発局長に就任した高沢勇さん。本社で目の当たりにした。開発局では、臨海土地造成計画を遂行するとともに、新たに宅地造成に手を染める。四十三か、これを裏返すと、知事部局の監督を受けながらも、独自に路線を走り出すことができるようになった。『初めは疎外された感じもあったが、したに自前でかせぐことに誇りを」

▼造れば売れた

三局に分かれた開発局。それが再び開発局として一本化する。この理由のひとつは、四十九年四月、開発局はその時を閉じ、工業用水局を分離した。角坂さんにはその解散式に、一別れても同じ海ゆく春の旅」という句をよんだという。やがて企業庁は、長期不況の波をまともに受けながら、川上真政のもとで大手術を迫られるのである。



曲がり角を迎えた千葉県企業庁(千葉市長洲の庁舎)



「工業用地を企業が奪い合ふんだ。それを調整するのが庁長の役目だった(角坂さん)。企業庁二十年の歴史の中で、最も華やかな時代。職員も千四百人を超した。企業手当や用地買収手当などで職員給与は、知事部局のそれの二・五倍にもなつたという。開発局長の交際費も、「知事より多かった。そうだが、予算規模も四十六年で二千四百五十億(当初予算)に削減を並べるほどに膨張した。勢いが増せば、発言力も増す。お目付け役の知事部局を通り越して、知事と直接話を進めることもかなりあった。公然としてはないが、「開発局長は第一副知事」「開発局独走」といった批判をする県庁幹部もいたという。

鳥獣保護区指定が難航

谷津干潟に観察舎は必要

【習志野】千葉県習志野市に残る日本でも有数の、水鳥の楽園「谷津干潟」を鳥獣保護区にして、その自然を守りたいという地内自然保護団体が運動のなかで、現地についた観察舎が、保護区指定の遅れなどから県企業庁の求めで自主撤去におこまれました。

この施設は、野鳥といくつかでも関心を持つおとなや子どもたちに、干潟の自然を守る大切さを知ってもらう場にと、谷津

【習志野】千葉県習志野市に

いるのは、県と同じ「同」といいます。

鳥獣保護区指定が遅れている理由は、地元習志野市が独自の土地利用計画を持ち、反対しているためと、環境庁鳥獣保護課は説明します。

谷津干潟の指定計画は第四次鳥獣保護計画に入っていたものの、一九八二年度からの第五次計画に繰り越された形になっています。

その習志野市は「干潟に一本

千葉 自然保護団体訴え

干潟保護研究会を中心に、日本野鳥の会千葉支部、千葉県野鳥の会など五団体の協力で干潟に接する県の埋め立て地に建てた野鳥観察舎(プレハブ)。

県企業庁が撤去を求めた理由は「県有地に無断で建てた不法建築」といふこと。

自然保護団体の側では、当初、観察舎の存続を求めて交渉を続けるつもりでしたが、県企業庁が「観察舎の撤去、白紙化が話し合いの条件」としたため、先月、自主撤去しました。

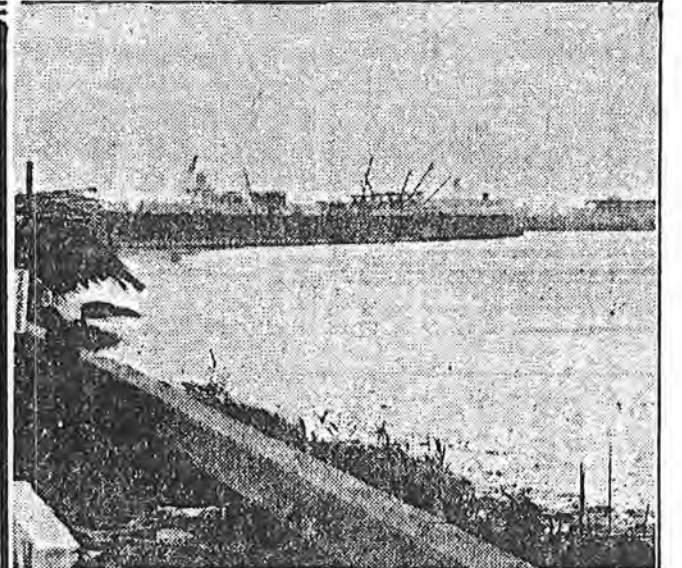
県企業庁は「干潟が保護区に指定されれば、埋め立て地の一部を有償で借りて保護する考えはあるが、指定が遅れている現状では、県有地を守る立場を貫くよりない」(臨海事業部業務第二課の長谷川一男課長)と語り、「干潟の保護区指定を前提に、埋め立て地の一部の宅地化工事をストップしており、指定が宙に浮いたことで迷惑して

習志野市長だけが反対しております。

古い汚水管が流入しているために、干潟がよされ、周辺住民から苦情がきている。干潟を浄化するには海水循環の施設や、汚水管の処理が必要だが、約七十億円かかる。これを国で負担するところが指定問題で話し合う条件」といふので、

水鳥の飛来を前にして、観察舎を撤去しなくてはならなくなつた谷津干潟保護研究会の森田三郎会長は「市、国、県の間で、堂々のめりをしてる間に、干潟は汚れ、荒れていき、この全国的にも重要な干潟が、なすすべになくなってしまつたら、後世に、なんといわけるのか。何方という鳥たちはどこへ行くのか」と訴え、十日ごろに、ふたたび県と交渉したいとしています。

一九八一・九・六
「アカハタ」



保護区指定が遅れている谷津干潟

おどろい本
「生命の本質」
「幸福にフリテ」
「シヨールペン」
「ハウエル」

20年目の真実

千葉県企業庁 (日経 1990.2.22)

企業庁土地利用計画 (単位: 億)

臨海地域	10,769
内陸地域	(すべて実施中)
工業団地	553
住宅団地	5,400
小規模住宅団地	32
レクリエーション地	701
計	15,455

※このほか臨海で計画では4カ所、合計で836%。また臨海の企業進出状況は、全県17地区、計1,420社、6,561社(54年4月1日現在)

千葉県の開発の実施部隊であった企業庁。高度成長を支えられた栄光の歴史も、石油危機を契機とする長期不況、経済の不安定化への移行で、大きな曲がり角にぶち当たる。抱える土地が三千億。一千億円を超過する規模。事務職を含め総数で九百人近い技術者集団。新たな道を求めてさまよひ歩く姿は、まるで年若いたまを思わせる。どこへ行くのか企業庁。

「開発は山ほど」

「開発は、安らかに老後を送るに過ぎない。その功は世界に比類のないものであるから……」。否定的なことも重要な政策とな

一氏だ。同じ保守系知事でありながら、友納カラーを川上カラに塗りかえる必要があった川上知事にとって、改めて開発を

千葉県の開発の実施部隊であった企業庁。高度成長を支えられた栄光の歴史も、石油危機を契機とする長期不況、経済の不安定化への移行で、大きな曲がり角にぶち当たる。抱える土地が三千億。一千億円を超過する規模。事務職を含め総数で九百人近い技術者集団。新たな道を求めてさまよひ歩く姿は、まるで年若いたまを思わせる。どこへ行くのか企業庁。

体質改善テコに新たな飛躍へ

「いよいよ、バツバツサつちねえな。減量化のメダタ。川上知事にとって公書を引き起すわけでもないホテルの建設さえ、反開発、開発のイメージにさわるわかったのかも。」「開闢軍」の異名がつけられた時代の企業庁を知る人にとっては、考えられないような出来事だろう。知事部局の強い監督下に置かれた企業庁

ついで最近のことである。百億円を超過するカネが突然消えた。舞浜A地区埋め立て地(四百千八)の公園用地約一千五。前年度は、昨年三月オゾンした人工海浜整備の浜。企業庁ではこの公園用地の一部をホテル建設用地として計画していた。建設用地と東京湾を見下ろす近代的水テ。計画とついでく企業はいくらかもあつた。しかし、川上知事の一声で計画は破

ついで最近のことである。百億円を超過するカネが突然消えた。舞浜A地区埋め立て地(四百千八)の公園用地約一千五。前年度は、昨年三月オゾンした人工海浜整備の浜。企業庁ではこの公園用地の一部をホテル建設用地として計画していた。建設用地と東京湾を見下ろす近代的水テ。計画とついでく企業はいくらかもあつた。しかし、川上知事の一声で計画は破

南房開発の軸に?

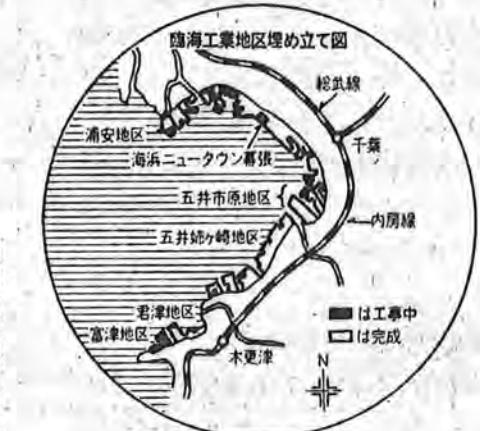
巨象技術集団を生かす道

の姿を物語るエピソードはこのほかにある。五十四年九月の定例県議会。自民党議員がこんな質問を川上知事にぶつけた。「企業庁に課された使命は今後も重大な。もつと企画立案に積極的に参加する必要があると思うがどうか」といふもの。これに対し、企業庁がこの数日間にかけて用地買収が完了してはい

とはつきり位置づけた。企業(の仕上げ)にかわりはなく、京葉一帯、市川一帯などの埋め立て計画に至っては、いつ着手できるかめもたない。目を北総に転じれば、千葉二ユータウンの問題がある。計画面積千九百餘。一期計画約千餘のうち白井、小室地区既に取り組む。となればこれは歴史の皮肉かもしれない。

の埋め立てである。しかし、この事業も、三井、三菱グループの撤退でさんざんミソがついてる。二十年來の懸案に着手できる。しかし、川上知事は、このきた点で意識はあるが、「開発」を南房地域の発展に使用したい」と考えている。

県の悲願である東京湾横断道建設。横断道が完成すれば大抵の人口流入も予想される。房総の豊かな自然を極力残すため、「企業庁を、南房の秩序ある開発のために使いたい」と川上知事は言うのだ。つまり「乱開発防止、やみくもな埋め立てを批判された企業庁が、乱開発防止に取り組む。となればこれは歴史の皮肉かもしれない。



とつても数多くあり、総額で一兆円といわれる千葉ニュータウン事業の採算がとれるのかどうかはつきりしていない。

▼法律のない弱み

こうした問題に加え、企業庁には「法律のチがたない」(ある中堅幹部の言葉)という企業長の判断が「憲法」といふ企業は、民間企業とそれほど変わりはない。しかし、扱われる事業はどれも巨大。

企業庁の保有地約三千二千。あと十五年か十年で売り切ってしまうだろう。技術費だけで三百人の埋め立て部隊は、消滅する運命にあるのだろうか。そろそろきたという声もある。しかし、川上知事は、この